

令和4年度

湧別町教育委員会
点検・評価報告書

令和5年9月

湧別町教育委員会

もくじ

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	(1) 趣旨	
	(2) 点検・評価の対象	
	(3) 点検・評価の流れ	
2	教育委員会の活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	(1) 教育委員会会議の開催及び審議状況	
	(2) 教育委員会会議の項目別点検	
	(3) 教育委員会会議以外の活動状況	
3	点検評価報告書・・・・・・・・・・・・・・・・	8
	(1) 学校教育	
	No. 1 学校運営事業 (地域に信頼される小中一貫教育の推進について)	
	No. 2 〃 (学力向上)	
	No. 3 〃 (ICT教育)	
	No. 4 〃 (安全・安心な学校づくり)	
	No. 5 〃 (豊かな心と健やかな体の育成)	
	No. 6 〃 (特別支援教育の推進)	
	No. 7 中高一貫教育推進事業	
	No. 8 北海道湧別高等学校存続対策事業	
	No. 9 国際理解教育事業	
	No. 10 学校給食センター運営事業	
	(2) 社会教育	
	No. 1 社会教育振興事業 (家庭教育)	
	No. 2 〃 (青少年教育)	
	No. 3 〃 (成人教育)	
	No. 4 〃 (高齢者教育)	
	No. 5 社会教育施設	
	No. 6 スポーツ活動振興事業	
	No. 7 芸術文化活動振興事業	
	No. 8 博物館・文化財保護活動	
	No. 9 図書館活動振興事業	
4	事業実績表・・・・・・・・・・・・・・・・	34
	(1) 令和4年度学校教育事業の実績表	
	(2) 令和4年度社会教育事業の実績表	
5	外部評価・・・・・・・・・・・・・・・・	50
6	参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・	53
	(1) 令和4年度 教育行政執行方針	
	(2) 湧別町教育目標、湧別町学校教育目標、湧別町社会教育目標	

1 はじめに

(1) 趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会において、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

このことを受け、湧別町教育委員会は効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、教育委員会の事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、学識経験者の意見を付して報告書を作成・公表しております。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、教育委員会の活動状況等の点検のほかに、令和4年度教育行政執行方針に掲げられた主要な事業の実施状況について点検・評価を行いました。

(3) 点検・評価の流れ

「教育委員会会議の活動状況」等については、教育委員会会議の開催状況や会議に付議された案件等について、項目別に点検を行うとともに、委員が出席した会議等の点検を行いました。

「点検・評価報告書」については、「令和4年度教育行政執行方針」に掲げられた主要な事業の内容、事業成果、自己評価及び今後の課題と方策を所管課が作成するとともに、点検・評価の客観性を確保するため、点検・評価の方法や結果などについて学識経験を有する方からのご意見を聴取しています。

【参考】

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会会議の開催及び審議状況

湧別町教育委員会の会議は原則として、毎月1回の「定例会」と、必要に応じて開催する「臨時会」があり、令和4年度は、合計13回の会議を開催しました。

この会議において、教育行政の基本方針の決定、教育に関する規則の制定など、様々な議題について審議等を行っております。

期 日	付議案件等 (○～報告、□～議案、△協議)
4.4.22 【定例】	<ul style="list-style-type: none"> ○湧別地区義務教育学校開設に係る協議経過について □湧別町立学校職員の自家用車の公用使用に関する要綱の一部を改正する要綱の制定について □湧別町立学校職員の修学部分休業の承認等に関する取扱要綱の一部を改正する要綱の制定について □湧別町立学校職員服務規程の一部を改正する規程の制定について □第3次湧別町社会教育中期計画策定の諮問について □湧別町教育支援委員会委員の委嘱について □学校運営協議会委員の解任及び任命について □湧別町学校給食センター運営委員の解嘱及び委嘱について □湧別町社会教育委員の委嘱について □湧別町スポーツ推進委員の委嘱について □湧別町図書館協議会委員の任命について □令和4年度奨学生の決定について
4.5.26 【定例】	<ul style="list-style-type: none"> □湧別町社会教育関係団体補助金交付要綱の一部を改正する要綱の制定について □令和4年度湧別町社会教育推進計画の策定について □令和4年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について
4.6.10 【定例】	<ul style="list-style-type: none"> □湧別町奨学金貸付条例の一部を改正する条例の制定について □湧別町奨学金貸付条例施行規則の一部を改正する規則の制定について □湧別町通学路交通安全プログラムの改訂について □子どもの読書活動推進計画策定委員の委嘱について □令和4年度教育費予算の補正について
4.7.19 【定例】	<ul style="list-style-type: none"> ○湧別中学校大規模改造工事（建築主体工事）請負契約の締結について ○湧別中学校大規模改造工事（電気設備工事）請負契約の締結について ○湧別中学校大規模改造工事（機械設備工事）請負契約の締結に

期 日	付議案件等 (○～報告、□～議案、△協議)
	<p>ついて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○湧別地区義務教育学校外構整備工事請負契約の締結について ○教育財産の取得について ○教育財産の取得について ○教育財産の取得について □令和4年度準要保護児童生徒の認定について
<p>4.8.25 【定例】</p>	<ul style="list-style-type: none"> □令和5年度に小学校及び義務教育学校前期課程において使用する教科用図書の採択について □令和5年度に中学校及び義務教育学校後期課程において使用する教科用図書の採択について □令和5年度に使用する教科用図書のうち学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択について □令和4年度要保護・準要保護児童生徒の認定について △令和4年度全国学力・学習状況調査の結果公表について
<p>4.9.7 【定例】</p>	<ul style="list-style-type: none"> □湧別町立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について □湧別町立学校設置条例の一部を改正する条例の施行に伴う教育委員会規則の整理に関する規則の制定について □湧別町立学校職員の自家用車の公用使用に関する要綱の一部を改正する要綱の制定について □令和4年度教育費予算の補正について □学校運営協議会委員の任命について □令和3年度教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書(案)について
<p>4.10.21 【定例】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教育委員会委員の任命の同意について ○令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容について □湧別町学校薬剤師の解任及び任命について
<p>4.11.18 【定例】</p>	<ul style="list-style-type: none"> □湧別町要保護及び準要保護児童生徒認定基準の一部を改正する基準の制定について
<p>4.12.7 【定例】</p>	<ul style="list-style-type: none"> □令和4年度教育費予算の補正について △令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果公表について
<p>5.1.19 【定例】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○湧別地区義務教育学校開設に係る協議経過について ○教育委員会所管職員の事務分掌異動について □令和5年度教育委員会関係当初予算について
<p>5.2.24 【定例】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○湧別地区中高一貫教育推進委員会について □湧別町招致外国青年任用規則の一部を改正する規則の制定について □湧別町スポーツ・文化合宿誘致事業補助金交付要綱の一部を改

期 日	付議案件等（○～報告、□～議案、△協議）
	正する要綱の制定について <input type="checkbox"/> 令和4年度教育費予算の補正について <input type="checkbox"/> 第3次湧別町社会教育中期計画の策定について <input type="checkbox"/> 令和5年度教育行政執行方針について <input type="checkbox"/> 令和5年度教育費予算について <input type="checkbox"/> 公の施設を長期かつ独占的に利用させることについて <input type="checkbox"/> △上湧別地区義務教育学校（仮称）の整備事業について
5.3.20 【定例】	<input type="checkbox"/> 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果公表内容について <input type="checkbox"/> 北海道湧別高等学校存続対策事業実施要綱の一部を改正する要綱の制定について <input type="checkbox"/> 湧別町立小学校児童用ヘルメット購入費補助要綱の一部を改正する要綱の制定について <input type="checkbox"/> 第2次湧別町子どもの読書活動推進計画の策定について <input type="checkbox"/> 学校運営協議会委員の解任について <input type="checkbox"/> 湧別町学校医等の任命について <input type="checkbox"/> 令和5年度準要保護児童生徒の認定について <input type="checkbox"/> 校長・教頭の任免の内申について
5.3.29 【臨時】	<input type="checkbox"/> 教職員の人事異動について <input type="checkbox"/> 湧別地区義務教育学校開設に係る協議経過について <input type="checkbox"/> 教育委員会教育長職務代理者の指名について <input type="checkbox"/> 修学旅行の引率業務等に従事する湧別町立学校職員の勤務時間の割り振り等に関する要領の一部を改正する要領の制定について <input type="checkbox"/> 湧別町教育アドバイザーの任命について <input type="checkbox"/> 湧別町教育支援委員会委員の解職及び委嘱について <input type="checkbox"/> 湧別町学校運営協議会委員の解任及び任命について <input type="checkbox"/> 湧別町学校給食センター運営委員の解職及び委嘱について <input type="checkbox"/> 湧別町社会教育委員の委嘱について <input type="checkbox"/> 湧別町スポーツ推進委員の委嘱について <input type="checkbox"/> 湧別町図書館協議会委員の任命について <input type="checkbox"/> 令和5年度湧別町立小学校、中学校及び義務教育学校の学級編制について <input type="checkbox"/> 教育委員会所管職員の事務分掌異動について

(2) 教育委員会会議の項目別点検

湧別町教育委員会行政組織規則第6条の規定により、教育委員会会議での議決が必要である事項のうち、令和4年度において教育委員会会議にかけられた議案等を分類し、適切に付議されているかどうか点検を行いました。

項 目	件数
① 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関する事	6
② 教科用図書採択に関する事	3
③ 法規たる性質を持つ教育委員会告示に関する事	8
④ 学校教育及び社会教育に関する一般方針の定めに関する事	1
⑤ 学級編成に関する事	1
⑥ 道費負担教職員たる校長及び教頭の任免その他進退ついでの内申に関する事	1
⑦ 歳入歳出予算の要求その他議会の議決を経るべき事項に関する事	10
⑧ 奨学金に関する事	1
⑨ 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関する事	3
⑩ 教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価に関する事	1
⑪ 法令又は条例に基づく委員等の任命（委嘱）に関する事	19
⑫ 要保護及び準要保護児童生徒の認定に関する事	4
⑬ 国際理解教育に関する事	0
⑭ その他異例又は重要な事項に関する事	0
⑮ 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員の任免その他の人事に関する事	1
報告	16
協議	3

令和4年度に湧別町教育委員会会議に付議された案件のうち、多かつたものとしては、法令又は条例に基づく委員等の任命（委嘱）に関する事「⑪」、次いで、歳入歳出予算の要求その他議会の議決を経るべき事項に関する事「⑦」であります。

教育委員会会議の議案作成のため、議案審議の他に報告や協議を実施しています。

(3) 教育委員会会議以外の活動状況

過去2年間は、新型コロナウイルス感染症の影響により学校での各種行事等への参加が制限される状況でありましたが、徐々に通常の状態に戻り、令和4年度は少しずつではありますが、学校の各種行事などにも出席できる状況となりました。

教育委員会会議のほか、研修会、会議、学校訪問や卒業式などにも出席しております。

※教育長を除く

期 日	活 動 内 容	出席委員数
4.4.4	教職員辞令交付式	3名
4.4.11	遠軽地区教育委員会協議会理事会	1名
4.4.12	上湧別地区小中一貫教育推進に係る地域説明会 (文化センターTOM)	4名
4.4.13	上湧別地区小中一貫教育推進に係る地域説明会 (上湧別コミュニティセンター)	4名
4.4.14	上湧別地区小中一貫教育推進に係る地域説明会 (開盛住民センター)	4名
4.4.14	上湧別地区小中一貫教育推進に係る地域説明会 (富美地区住民センター)	4名
4.5.9	遠軽地区教育委員会協議会総会	3名
4.6.21	中高一貫教育研修会	1名
4.7.7	オホーツク管内教育委員会協議会総会	1名
4.7.14~15	北海道市町村教育委員研修会	2名
4.10.21	学校訪問(上湧別小学校、富美小学校、中湧別小学校)	4名
4.11.16	遠軽地区教育委員会協議会研修会	2名
4.11.18	学校訪問(湧別小学校、湧別中学校)	3名
4.12.7	学校訪問(芭露学園、開盛小学校、上湧別中学校、湧別高校)	3名
5.1.9	20歳の集い	2名
5.1.19	総合教育会議	4名
5.3.15	中学校卒業式(上湧別中学校)	1名
5.3.20	小学校卒業式(中湧別小学校)	1名
5.3.22	小学校卒業式(上湧別小学校)	1名
5.3.24	湧別小学校閉校式	2名
5.3.24	湧別中学校閉校式	3名

3 点検評価報告書

(1) 学校教育

No.	1	事業名	学校運営事業（地域に信頼される小中一貫教育の推進について）	担当課	教育総務課
執行方針	<p>優れた教育環境を確保するため「湧別町の教育」の基本は、発達段階に応じた9年間のきめ細かなカリキュラムによる「小中一貫教育」の推進としております。</p> <p>これを実現するため全町に9年間を見通した施設一体型義務教育学校の導入を進めてまいります。</p> <p>本年度は、本町2校目となる湧別地区義務教育学校を令和5年4月の開校に向け、中学校棟の大規模改修を実施いたします。合わせてPTAや学校運営協議会などで組織する開設準備委員会、さらに教職員で組織する開校準備委員会においても、開校に向けて必要な協議を行うこととしております。</p> <p>一方、上湧別地区の小中一貫教育の推進については、小学校区ごとの地域懇談会を終え、それぞれの地区から貴重なご意見などをいただきました。いただいたご意見などしっかり受け止め、町としての方向性を定め、時期を逸することなく地域とのさらなる協議を行い、上湧別地区の施設一体型義務教育学校の実現に向け取り組んでまいります。</p> <p>学校の働き方改革については、長時間勤務の解消のため業務改善と職員の意識改革を進めるとともに、ICT機器を有効活用した授業の効率化を図りながら、教員のゆとりある教育活動を推進し、教員が子どもと向き合う時間の充実を図ってまいります。</p>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 湧別地区義務教育学校の校舎増築、湧別中学校の大規模改造、外構・遊具設置工事の実施 上湧別地区義務教育学校の校舎増築及び上湧別中学校改修工事の基本実施設計の実施 学校職員の時間外在校時間公表 				
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> 湧別地区義務教育学校の開校に向け、校舎の増築工事及び既存湧別中学校における大規模改造工事を実施するとともに、外構工事・遊具設置工事を実施した。また、湧別地区義務教育学校開設準備委員会において開校記念式典の内容など開校に向けた協議を行った。 小学校区ごとに2回目となる地域懇談会を開催し、保護者や地域住民の意見等を聞くことができた。この意見等をもとに、上湧別地区義務教育学校開校に向け、校舎等整備に係る設計業務を実施した。 教職員の働き方改革の取り組みの検証及び改善の参考とするため、勤務実態調査を行い、町ホームページにて公表。保護者や地域住民等に対し、学校における働き方改革の取組について周知を図った。 				
課題	<ol style="list-style-type: none"> 小・中学校の統合に合わせて、教育内容を充実させ、魅力ある学校教育を展開することが必要である。 				

課題	2 地域懇談会で得た意見等を新たな学校の開設時に反映する。 3 引き続き教職員の働き方改革を進め、業務改善と在校時間の長時間化を防ぐための取り組みが必要である。
改善方策	1 9年間の連続した教育課程を充実させ、小中一貫教育を推進する。 2 P T Aや学校運営協議会などで組織する開設準備委員会、さらに教職員で組織する開校準備委員会を設置し、課題解決の方策を探る。 3 I C Tの活用などを行い業務改善、教職員の働き方改革を継続して推進する。

No.	2	事業名	学校運営事業（学力向上）	担当課	教育総務課
-----	---	-----	--------------	-----	-------

執行方針	<p>本町の昨年の全国学力・学習状況調査での平均学力は、小学校が全国平均を上回り、また中学校においても全国平均同等まで到達することが出来ました。</p> <p>この結果は、これまで実施してきた習熟度別学習などの取り組みに加え、湧別小学校を実践校として取り組んできた「湧別町型学校力向上事業」を町内すべての学校で実践した結果であり、これまでの教員が一方的に知識を詰め込む授業スタイルではなく、子どもたちが自らの考えや意見を持ち、友達と意見交換することにより、さらに学びを深める「主体的で対話的」な授業スタイルの成果であると確信しております。</p> <p>したがって、引き続き「湧別町型学校力向上事業」に取り組むほか、本年度はさらに中学校段階での「主体的で対話的」な学びを実現するために、湧別中学校と上湧別中学校を実践校として北海道大学からの講師招聘や公開授業から授業改革に取り組み、すべての学校と教員が足並みをそろえて、一層の学力向上を図ってまいります。</p>
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 全国学力・学習状況調査における取組 2 放課後や長期休業を活用した補充学習や学力向上支援員活用の実施 3 湧別町型学校力向上事業の実施 4 教育アドバイザーによる学校訪問の実施 5 指導室と学校の連携による学力の向上 6 ICT教育の推進 7 北海道大学との連携事業の実施
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 全国学力・学習状況調査における調査結果 学力の向上を図るため、指導方法の工夫・改善による取り組みを行ったこと等により、令和4年度の全国調査の結果では、小学校では国語・算数・理科の全ての教科で全国平均を上回った。逆に中学校では国語・数学・理科の全ての教科で全国・全道平均を下回る結果となった。 2 放課後や長期休業を活用した補充学習や学力向上支援員活用の実施 例年、夏・冬期休業期間に湧別高校生徒の協力により実施している、学習サポート事業「まなびいタイム」を実施した。学力向上支援員については、上湧別小学校と芭露学園、中湧別小学校の3校に3名を配置し、複式学級における授業支援の他、ティームティーチングや習熟度別指導を行う等、学力向上に向けた取り組みを継続した。この他、すべての学校で、北海道教育委員会が提供する「チャレンジテスト」を実施し学習内容の定着を図った。

事業成果	<p>3 湧別町型学校力向上事業の実施 令和2年度から3年計画で実施している本事業について、昨年度に引き続き大妻女子大学の樺山教授を招き、湧別小学校において公開研究会を実施した。各学校の教員等が参加して、単元全体の授業プランの重要性と多様な子どものことを考えた授業づくりについて講演を行い、令和の日本型教育にそった授業改善の必要性を説いた。</p> <p>4 教育アドバイザーによる学校訪問の実施 毎月の定期的な学校訪問の他、必要に応じて随時、学校訪問や教育委員会への来所等により、校長・教頭先生に対する指導助言を行った。</p> <p>5 指導室と学校の連携による学力の向上 毎月開かれる校長会議等の機会を通じ、各学校管理職に対し授業改善等に関する連絡・調整を図り、学力向上に向けた指導助言を行った。</p> <p>6 ICT教育の推進 各学校において、「GIGA スクール事業」により整備した児童生徒や教員用のタブレット端末等を活用し、学校における授業での活用や家庭に持ち帰っての活用等、効果的な取り組みとなるよう、様々な活用や研究を行った。</p> <p>7 町内小中学校及び義務教育学校における主体的・対話的な深い学びを充実させるため、11月24～25日に北海道大学大学院教育学研究院教授 守屋淳氏を招き、上湧別中学校の授業参観、及び湧別中学校を主会場にした公開研究会を実施し、中学校の授業改善の方向性や子どもの学びを如何に保証していくか等について説いた。</p>
課題	<p>様々な学力向上施策や湧別町型学校力向上事業を行うことにより、全国学力・学習状況調査の結果では、小学校では全ての教科で全国平均を上回った。一方、中学校では、すべての教科で全道・全国平均を下回る結果となった。今後について、一定の成果が出ている小学校では、この結果を継続させていくことが必要である。中学校では、一部の学校においては全教科で全国平均を上回る結果となっている学校もあり、基礎学力の習得や適切な学習課題の設定、主体的で探求心を伸ばすような授業づくりなど、授業等の指導方法を研究し改善する取り組みを継続する必要がある。</p>
改善方策	<p>各学校において、児童生徒の学力に応じた指導方法の工夫改善に努めるとともに、教育委員会、学校、家庭が一体となって学習習慣の定着に向けて取り組む。</p> <p>全国調査の結果を踏まえて、各学校が「学力向上改善プラン」の見直しを行いながら学習指導を行うとともに、配置を必要とする学校に対しては学力向上支援員を配置し、きめ細やかな指導を行う。</p> <p>湧別町型学校力向上事業の実施により、町内全ての学校の授業力向上・学力向上を推進することはもとより、各学校の学校組織力や人材育成を加えた取り組みを行う。</p> <p>教育アドバイザーによる学校への指導助言を継続し、指導方法の改善方策の立案に対する支援を行うと共に指導室と学校の連携を密にしながら、学力向上に向けた取り組みを継続する。</p> <p>各学校の管理職や教員等で組織するICT教育推進委員会において、各学校のICT教育に関する課題や効果的な指導方法等について検証し情報共有を図りながら、ICT活用技能の向上を図る。</p>

No.	3	事業名	学校運営事業（ICT教育）	担当課	教育総務課
執行方針	<p>ICT教育については、GIGAスクール構想で配備した1人1台タブレットパソコンを教員が効率的に授業に活かすため、「湧別町ICT教育推進委員会」を中心にして教職員のICT技術向上に努めてまいります。</p> <p>本年度はさらに、上湧別小学校と富美小学校を研究推進校として、複式授業での効果的な活用方法や他校の複式学級とのオンライン授業などについて実践研究を行い、タブレットパソコンの効果的な活用を進めてまいります。</p>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ICT推進委員会の活性化 2 各学校のタブレット端末の活用状況の把握 3 研究推進校の活用方法の他校への普及 				
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 ICT推進委員会を教育委員会主導から教員主導に変え、より機動的な組織へと改編したことで、先進校視察や各推進委員同士での交流が活性化した。 2 アドバイザー訪問に合わせてICT推進委員会委員長が、各校のタブレット端末の活用状況を確認し、検索や書画カメラ、プレゼン以外の使い方を見て回ることで、各校が意識的に使うようになった。 3 複式学校同士で、タブレット端末を活用して複式学級を解消した授業の実践や、休み時間での交流などを行ったり、研究推進校の使い方をICT推進委員会で交流することで、各校の取組が進んだ。 				
課題	<p>先進校は管内にもあるが、同じ端末を使っている先進校は管外であるためその学校へ行くための旅費の確保が難しい。また、タブレット端末の活用が進めば、今後デジタルドリルの活用が考えられ、そのライセンスのための費用が必要になってくる。</p>				
改善方策	<p>各学校の活用状況を正確に把握し、ICT推進委員会を中心に、各学校の特徴的な使用法や実践事例を普及させ、どの学校も同じように使っている状況を作り出す。また、同時により良い使い方について、ICT推進委員会のメンバーを先進校に視察させ、その使い方の普及を目指していく。そのための予算について、確保していくようにする。また、デジタルドリルについても全学校の使用状況が同様になってきた段階で、ICT推進委員会の中で協議し、ライセンス購入に向けた予算確保を目指していく。</p>				

No.	4	事業名	学校運営事業（安全・安心な学校づくり）	担当課	教育総務課
執行方針	<p>新型コロナウイルス感染症の対応については、学校での万全な感染予防対策を講じるとともに、家庭での感染予防の徹底を啓発してまいります。</p> <p>学校行事については、コロナ感染状況を見極めながら、可能な限り実施できる方法を検討するとともに、オンライン授業の準備を整えることで、いかなる状況でも学びを止めない体制を整えてまいります。</p> <p>登下校の安全確保については、「湧別町通学路交通安全プログラム」に基づき、地域や警察・道路管理者と連携して安全確保に努めてまいります。</p>				

事業内容	<p>1 新型コロナウイルス感染症対策に係る各種取組み</p> <p>2 通学路交通安全プログラムの改訂</p>
事業成果	<p>1 新型コロナウイルス感染症対策として、町予算や国の学校保健特別対策事業等を活用し感染症対策用としての消耗品や備品、教職員の研修費用、児童生徒の学習機会確保を図るための消耗品や備品等の整備を行った。また、感染による自宅療養や臨時休業時には、各学校で児童・生徒が各家庭にタブレット端末を持ち帰り、オンライン授業やオンデマンド授業等の取組みを実施した。</p> <p>2 通学路の安全について、合同点検の結果を対策必要箇所及び対策として追加し、プログラムを改訂した。また、その結果を町ホームページで公表した。</p>
課題	<p>1 新型コロナウイルス感染症対策については、継続した取組みが必要となるため、今後も必要に応じ学校の要望等を確認の上、感染症対策用の消耗品や備品を整備する必要がある。オンライン授業実施にあたっては、インターネット環境の無い家庭に対する wi-fi ルーター貸与等の対応が必要となる。</p> <p>2 児童生徒の登下校における交通安全を確保することから、引き続き通学路の安全点検や必要な対策について協議していく必要がある。</p>
改善方策	<p>1 新型コロナウイルス感染症対策については、今後においても継続した取組みが必要となるため、学校の要望等を確認の上、感染症対策用消耗品等について町単費で予算措置を行う他、国等の補助金等の活用についても検討を進めていく。</p> <p>また、オンライン授業の実施にあたって、インターネット環境の無い家庭に対しては町で整備している wi-fi ルーターの貸与を行い、児童生徒の学習機会を保障する取組みを進めていく。</p> <p>2 教育委員会事務局、各学校、地域関係者との連携及び情報の共有により、通学路の危険箇所の点検を継続する。各学校での交通安全教育を継続する。</p>

No.	5	事業名	学校運営事業（豊かな心と健やかな体の育成）	担当課	教育総務課
-----	---	-----	-----------------------	-----	-------

執行方針	<p>豊かな心を育むため、道徳授業や集団生活のルールを指導するとともに、運動の習慣化や規則正しい生活、スマートフォンやゲーム依存の防止なども指導することで、心と体が調和した優れた人格形成を図ってまいります。</p> <p>いじめや不登校については、早期発見と素早い対応に努め、家庭や関係機関と連携して早期解決を図ってまいります。</p>
事業内容	<p>1 学校の教育課程を通じた道徳教育の推進</p> <p>（1）各学校における道徳教育の推進</p> <p>（2）各教科・特別活動・総合的な学習等を通じた道徳教育の指導</p> <p>2 全国体力・運動能力調査における取組</p> <p>3 各学校で策定された学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ等の問題行動の未然防止、早期発見、早期解消</p> <p>4 教育アドバイザーによる指導助言や相談支援体制の強化・充実</p>

事業 成 果	<p>1 学校の教育課程を通じた道徳教育の推進</p> <p>(1) 道徳の時間において、発達段階に応じた基本的な生活習慣、互いに協力し合う態度や集団における役割と責任等について指導した。</p> <p>(2) 保護者や地域住民の協力により、特別活動等の指導において道徳性を養った。</p> <p>2 全国体力・運動能力調査における調査結果</p> <p>体力の向上や課題の検証を図ること等を目的に、全小・中・義務教育学校の小学5年生と中学2（8）年生を対象に調査を行った。</p> <p>小学校男子は5種目で、女子は6種目で全国平均を上回った。中学校男子は、7種目で、女子では4種目で全国平均を上回る結果となった。</p> <p>3 各学校で策定された学校いじめ防止基本方針に基づき、各学校において定期的にアンケート調査等を実施し、いじめの把握に努め、早期発見、早期解消が図られた。</p> <p>4 教育アドバイザーによる指導助言や相談支援体制の強化・充実</p> <p>教育アドバイザーによる学校現場への指導助言や児童生徒、保護者との相談支援体制の強化・充実が図られた。</p>
課 題	<p>道徳教育は、児童生徒が人間としての在り方を自覚し、人生をより良く生きるために、その基盤となる道徳性を育成するものであることから、教育活動全体を通じた指導を継続する必要がある。</p> <p>全国体力・運動能力調査の結果、小学校及び中学校の男女とも、多くの種目で全国平均を上回る結果となった。一定の成果が出ている学校では、この結果を継続させていくことが必要である。</p> <p>いじめは、人として絶対に許されないという認識のもと、児童生徒がいじめ等の問題行動を行わないよう継続した取り組みが必要である。</p> <p>スマートフォン、携帯電話、パソコン・ゲーム機等を利用したインターネットによるいじめが全国的な問題となっているため、学校における児童生徒の利用実態を把握するとともに、インターネット利用の指導や、保護者への啓発を継続する必要がある。</p>
改 善 方 策	<p>各学校における教育活動や特別の教科「道徳」等を活用しながら、道徳教育を充実させる取り組みを継続する。</p> <p>いじめは人として絶対に許されない人権侵害であることを認識し、児童生徒が主体的にいじめについて考え、行動することができるよう指導を継続する。</p> <p>いじめ等の問題行動の未然防止、早期発見、早期解消を図るため、いじめアンケート調査等による取り組みを継続する。</p> <p>児童生徒によるインターネットの利用について指導するとともに、教職員や保護者に対し研修機会の充実を図る。</p>

No.	6	事業名	学校運営事業（特別支援教育の推進）	担当課	教育総務課
執行方針	支援を必要とする子どもたち個々に応じた支援を行うため、湧別小学校を拠点に派遣指導を行う巡回通級指導教室の充実や、各学校に設置する特別支援学級及び特別支援教育支援員を引き続き配置するとともに、関係機関との連携を図り適切な支援を提供してまいります。				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 通級指導教室の実施 2 特別支援学級の設置 3 特別支援教育支援員の配置 4 校種間、こども園及び保育所と連携した推進体制の充実 				
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 通級指導教室の実施 通級指導教室実施校である湧別小学校に通級指導教員3名を加配措置し、自校・他校含め令和4年度末時点では6校で46名の児童・生徒に対し指導を行い、ことばの指導や学習・生活面における困り感の解消を図った。 2 特別支援学級の設置 関係機関と連携しながら就学相談や就学指導を実施し、教育支援委員会の開催により支援が必要な児童生徒を適切に把握し、支援が必要な児童生徒が在籍する学校に特別支援学級を設置した。 3 特別支援教育支援員の配置 必要に応じて小学校3校に7人の特別支援教育支援員を配置し、支援が必要な児童に対し支援を行った。 4 校種間、こども園及び保育所と連携した推進体制の充実 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各学校で支援委員会等を開催し、特別な支援が必要な児童生徒について把握するとともに、支援内容等を検討し、教職員の共通理解のもと、特別支援教育を推進した。 (2) こども園・保育所・小学校による「園・保・小交流会議」を開催し、就学前幼児及び就学直後の子どもたちのより良い成長、発達のために関係機関との連携を深めた。 (3) 就学時には、保育所及びこども園と就学する小学校間、小学校から就学する中学校間において就学する児童生徒に関する引継ぎを行い、校種間の連携による適切な支援を行った。 (4) 北海道教育委員会が実施する特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業について5校の小・中・義務教育学校が活用し、各学校の特別支援教育コーディネーターや担任教員等が北海道立特別支援学校教員の助言等により、支援が必要な児童生徒に対する指導及び支援の充実が図られた。 				
課題	<p>支援が必要な児童を就学前に把握し、児童の状況に対応した早期の支援を行うため、関係機関が連携して適切な就学指導を行う必要がある。</p> <p>支援が必要な児童生徒に対し、特別支援学級への在籍や特別支援教育支援員を配置するほか、保護者への教育相談を充実する取り組みを継続する必要がある。</p> <p>関係機関との連携による支援体制の整備に努め、支援が必要な児童生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援が必要である。</p>				

改善 方 策	<p>関係機関と連携し、支援が必要な児童生徒の早期把握に努め適切な就学指導を行うとともに、必要とする学校に対しては特別支援教育支援員の配置を継続する。</p> <p>学校と教育委員会事務局との情報共有、保護者への教育相談の充実に努める。</p> <p>校種間、幼稚園及び保育所、福祉関係事業所等と連携し特別支援教育支援体制の充実に努める。</p>
--------------	---

No.	7	事業名	中高一貫教育推進事業	担当課	教育総務課
-----	---	-----	------------	-----	-------

執 行 方 針	<p>町内中学校・義務教育学校後期課程と湧別高校で行う中高一貫教育については、6年間を通じたキャリア教育を目的に平成17年から開始され、16年が経過しました。</p> <p>この間2度、学習指導要領が改正され、児童生徒は小学校段階から自分の将来像と職業観を学習し、学びの成果はキャリアパスポートに記録し高校に引き継ぐことが制度化されるなど、中高一貫教育の取り組みとの一部重複が生じております。</p> <p>このため本年度は、町が進める小中一貫教育いわゆる9年間を見据えた義務教育学校の導入により、中高一貫教育との整合性が問われることから、適正化のため検討を進めてまいります。</p>
事 業 内 容	<p>1 湧別町教育委員会、北海道湧別高等学校、上湧別中学校、湧別中学校、芭露学園による一貫教育の実施</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 教育課程・学習指導</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 特別活動・生徒指導</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) S T Cプログラム</p> <p>2 中高一貫教育推進会議運営費の補助</p> <p>3 中高一貫教育の検証と今後に向けた検討</p>
事 業 成 果	<p>1 湧別町教育委員会、北海道湧別高等学校、上湧別中学校、湧別中学校、芭露学園による一貫教育の実施</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 教育課程・学習指導</p> <p style="margin-left: 40px;">中高6年間を見越した基礎学力の育成及び進学・就学指導、各教科における中学校教諭・高校教諭による乗り入れ授業・授業交流・つなぎ学習を実施することにより、学力向上を推進した。</p> <p style="margin-left: 40px;">シラバスをデータで配布し、有効活用することができた。</p> <p style="margin-left: 40px;">基礎学力テストも新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い実施することができた。</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 特別活動・生徒指導</p> <p style="margin-left: 40px;">部活動クリニックを開催し、技術向上を目指しながら中高生の部活動におけるの交流を図ることができた。合同講演会は、新型コロナウイルスの影響によりWEB開催とすることも検討していたが、一堂に会し開催することができた。</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) S T Cプログラムの実施</p> <p style="margin-left: 40px;">学年に応じて、自己の生き方・在り方を見つめ、6年間を通しての系統的なキャリア教育を行った。職業への興味関心やコミュニケーション能力を高</p>

事業成果	<p>め、職場体験の実施や自分の将来について考え語るにより、勤労観・職業観を育んだ。また、中学生に対して高校生が実体験などをスピーチすることにより、地域の歴史・諸課題・職業選択に関する知識を伝える力を育成した。</p> <p>2 中高一貫教育推進会議運営費の補助 中・高の連携による教育活動に要する費用を助成し、資格の取得や講習会、講演会等の開催を推進した。</p> <p>3 これまでの中高一貫教育のあゆみや取り組みを検証し、今後の在り方について協議した。</p>
課題	<p>新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、徐々に活動が通常に戻ってきている。しかしながら、過去2年間、事業の縮小や中止が相次いだため、教職員の多くが今までの活動を経験していなく、中高一貫教育の目的や意義について伝え、理解を深めて行くことが必要である。</p> <p>基礎基本の定着を図るためのつなぎ学習の実施を継続する必要がある。</p> <p>教職員が減少していることや、学習指導要領が変わってきていることから、取り組みについて検証を進めているが、今後も見直しに向けて協議を継続する必要がある。</p>
改善方針	<p>中高一貫教育の目的や意義について伝え、全ての部会や学校で活動を進めて行くことが必要である。</p> <p>多くの場面において、中高生と一緒に活動できる場を増やし、交流を深めていく。引き続き、乗り入れやつなぎ学習を実施し、学力の向上を目指す。</p> <p>事務局会議、各部会会議を継続して開催し、取り組みの見直しや今後の事業について検証、協議を行う。</p>

No.	8	事業名	北海道湧別高等学校存続対策事業	担当課	教育総務課
-----	---	-----	-----------------	-----	-------

執行方針	<p>湧別高校については、同校の魅力化と入学者数の増加を図るため、「北海道湧別高等学校存続対策事業」を継続して実施し、各種助成により存続を支援してまいります。</p>
事業内容	<p>1 教科書等購入費補助事業</p> <p>2 学力向上推進費補助事業</p> <p>3 海外交流派遣費用補助事業</p> <p>4 部活動用具等購入費補助事業</p> <p>5 部活動クリニック補助事業</p> <p>6 部活動合宿遠征費補助事業</p> <p>7 学校体育文化活動費補助事業</p> <p>8 通学費補助事業</p> <p>9 生徒会等事業補助</p> <p>10 部活動交通費</p>

事業成果	<p>湧別高校の魅力のひとつとして町からの補助金は重要であり、保護者の負担軽減や学力向上、部活動の推進、また魅力的な事業を実施するため、引き続き支援を行っていくことは効果があると考え。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科書等購入費補助事業 在籍する生徒の保護者に対し、学校が指定する教科書及び副教材の購入費用を補助した（生徒117名）。 2 学力向上推進費補助事業 父母と教師の会が、在籍する生徒の学力向上のために学校が指定する模擬試験受験費用及び学力向上用教材購入助成に要した費用を補助した（模擬試験受験者延べ327名、学力向上教材：スタディサプリ40部・進路マップ30部、タブレット端末購入費iPad30台）。 3 海外交流派遣費用補助事業 新型コロナウイルス感染症の影響により事業が中止となったため、補助なし。 4 部活動用具等購入費補助事業 体育文化後援会が、部活動の活動環境を整備するために用具等の購入費を助成した費用を補助した（吹奏楽局）。 5 部活動クリニック費補助事業 体育文化後援会が、部活動の資質向上のために部活動クリニック実施に要する費用を助成した。（吹奏楽局2回実施）。 6 部活動合宿遠征費補助事業 体育文化後援会が、部活動の資質向上を図るため、北海道内（オホーツク管内を除く。）の高等学校との対外試合等を行うための合宿遠征に要する費用を補助した。（ラグビー部、吹奏楽局、バレー部） 7 学校体育文化活動費補助事業 体育文化後援会が、湧別高校を代表する団体及び個人が参加する全道的な規模以上で開催される競技会等の参加費用を助成する場合の当該費用を補助した（ラグビー北海道体育大会兼国体北海道予選会、ラグビー全国選抜大会、ラグビーU18女子選抜全国大会、吹奏楽局全日本管打楽器ソロコンテスト北海道大会）。 8 通学費補助事業 営業バス又はJRを利用して片道4kmを超えて通学する生徒の保護者に対して、通学のために購入した定期券、回数券、ICカード購入費用を補助した（のべ生徒371名）。 9 生徒会等事業補助 生徒会又はPTAが実施する湧別高校の魅力向上に繋がる活動に補助した（北大祭参加、学校祭打ち上げ花火、PR用記念品、学校案内、生徒募集用ポスター制作、未来計画） 10 部活動交通費補助 体育文化後援会が、全道的な規模未滿で開催される競技会等に参加する部活動の交通手段として貸切りバス等を利用する費用を助成する場合の当該費用を補助した。（吹奏楽部、ボランティア部）
------	---

課題	地域の高校の存続対策の推進を図るため、保護者の負担軽減及び湧別高校の魅力ある学校づくりに繋がる効果的な支援策を継続する必要がある。 数多くの事業や補助、成果、または湧別高校の魅力を中学生及びその保護者や地域住民へ継続して周知することが必要である。
改善方策	継続して支援を行う。 町内外の中学生に対して、継続的に事業・補助内容の周知を図る。 魅力的な学校づくりのための補助を行う。

No.	9	事業名	国際理解教育事業	担当課	教育総務課
-----	---	-----	----------	-----	-------

執行方針	外国語教育については、小学校6年生までに英語検定資格の取得をめざす「英検チャレンジ事業」を継続して実施いたします。 国際交流事業については、友好都市のニュージーランドのセルウィン町及びカナダのホワイトコート町と行っている、中学生・高校生の交換留学事業と相互交流事業は、新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら実施してまいります。
事業内容	1 英検チャレンジ事業 2 パートナー交流プログラム事業 3 外国語指導助手招聘事業 4 英会話教室 5 ALTにより異文化紹介のポスター作成 6 小学生英会話事業 7 英語でクッキング
事業成果	1 英検チャレンジ事業 令和4年度は「学園制加配」を活用し英語を通じた小・中一貫教育の推進を行う上湧別地区の小学校を実践校として指定し、実践校及び受検を希望する学校が英検及び英検 Jr. を受検した。 【英検】※延べ人数 開盛小学校：3人（3級、4級）※4級受検者が合格 【英検ジュニア】 上湧別小学校：9人（SILVER） 中湧別小学校：25人（GOLD2人、SILVER8人、BRONZE15人） 開盛小学校：6人（SILVER1人、BRONZE5人） 富美小学校：12人（GOLD1人、SILVER5人、BRONZE6人） 湧別小学校：3人（GOLD3人） 芭露学園：6人（SILVER4人、BRONZE2人） 2 パートナー交流プログラム事業 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、交換留学事業が中止になったことから代替事業として、湧別町の学生とダーフィールドハイスクールで日本語を学んでいる学生がペアを組み、5か月間にわたってオンライン交流や英会話教室を開催した。中高生3名が参加。昨年度よりオンラインの回数を増やし、交流を深めることができた。

事業成果	<p>3 外国語指導助手招聘事業 自治体国際化協会を通じカナダからのALT 2名、ダーフィールドハイスクールを通じプライベートのALT 1名を任用し、町内全ての小・中・義務教育学校、湧別高等学校及び児童センターへ派遣した。</p> <p>4 英会話教室 簡単な日常英会話を学び、異文化に触れる機会を提供するため、一般町民対象の英会話教室を通年に渡り開催した。</p> <p>5 ALTによる異文化紹介のポスター作成 ALTが自分の国や文化を紹介するポスターを毎月作成し、各学校や公共施設等に貼り出した。町民に広く異文化や英会話を紹介することができた。</p> <p>6 小学生英会話事業 小学生を対象とした英会話事業を開催した。自己紹介や挨拶の他、季節の言葉をテーマとし、カード作りやゲームを行った。遊びの中で英語を使うような工夫をし、異文化に触れる機会を提供し、楽しんで英語を学んでもらうことができた。また、湧別高校生にサポーターとして参加してもらい、英語を活用し、教える喜びを体験してもらった。</p> <p>7 英語でクッキング 新型コロナウイルス感染症の影響があり、対面での料理教室の開催が難しいことから、ニュージーランド料理を紹介する動画を作成し、YouTubeで公開した。自宅にいながらでも異文化に触れてもらえる機会を提供できた。</p>
課題	<p>1 英検チャレンジ事業 各学校において、一人でも多くの児童に英語に対する興味を持ってもらい、英検や英検ジュニアの受検児童の増に繋がると共に、検定に向けた練習問題の実施等、受検対策等の実施が必要である。</p> <p>2 パートナー交流プログラム 長期間での事業となるため、参加者が参加しやすい状況をつくる必要がある。ニュージーランドとのオンライン交流はできたが、時差の関係でカナダとの交流が難しい。</p> <p>3 外国語指導助手招聘事業 外国語指導助手の活用の仕方、学校教員との連携を深めるため、打ち合わせの時間を確保する必要がある。巡回英語教諭との打ち合わせ方法や、各学校への派遣日程調整などが必要。</p> <p>4 英会話教室 参加者が固定されてきている、または参加人数が少ないことがある。参加者のレベルの違いが大きく、内容に苦慮する。</p> <p>5 ALTによる異文化紹介のポスター作成 長年にわたってポスターを作成しているため、内容に新鮮味がなくなっている。また、学校での活用方法について、協議する必要がある。</p> <p>6 小学生英会話事業 参加者のほとんどが低学年だったため、何人かの高学年には簡単すぎる内容となるが多かった。年齢を区切ったり、方法を検討する必要がある。</p>

課題	<p>7 英語でクッキング</p> <p>YouTube 公開だけでは自分から発信することができないため、対面での実施が効果的である。</p>
改善方策	<p>英検チャレンジ事業については、教育委員会が中心となり、インターネット上の動画配信等による受験対策問題や過去問を提供するとともに、夏・冬休みに実施する「まなびいタイム」を活用しALTによる特別講習を行う等の取り組みを実施する。また、ALTや各学校の外国語担当教員と連携を図ることで、英語に興味を持つ児童を一人でも増やすとともに、受検（合格）者の確保に繋げていくこととする。</p> <p>交換留学事業・相互交流事業が中止となった場合においても代替事業を行うことは必要。その際、インターネットなどを上手に活用し、少しでも英会話の練習を続けてもらうことや、異文化に触れる機会を提供する。しかし、状況がよくなれば、対面での事業を積極的に開催する。</p> <p>外国語指導助手招聘事業については、継続して同人数のALTの招致が必要である。各学校への派遣や巡回英語教諭との連携については、巡回英語教諭の所属校である上湧別中学校に中心となってもらい、各小学校と連絡調整をする。また、外国語指導助手の勤務状況の評価を行うなど、効果的な派遣に努める。</p>

No.	10	事業名	学校給食センター運営事業	担当課	教育総務課
執行方針	<p>学校給食については、施設内の衛生管理を徹底し、老朽化した厨房設備を更新するとともに、地場産や北海道産の食材を優先的に使用した栄養バランスの優れた給食を提供してまいります。</p> <p>また、食育については、食の大切さや食に関する正しい知識と食習慣を身に付けるための栄養教諭による指導を行ってまいります。</p> <p>本年度の給食費については、昨年と同額の1食当たり小学校247円、中学校285円で提供してまいります。</p>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 おいしくて栄養バランスのとれた給食作りの実施 2 地元産食材の活用 3 栄養教諭による食に関する指導 4 食物アレルギー等を有する児童生徒への代替食等の対応 5 厨房機器の計画的な更新 6 物価高騰に伴う子育て世帯への給食費負担軽減 				
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 おいしくて栄養バランスのとれた給食作りの実施 学校給食センター運営委員会、各学校の給食担当者会議等で給食に対する意見を献立等の作成に活用した。残食調査を実施し、結果に基づき適切な分量の給食提供に活用した。 2 地元産食材の活用 地元産食材の購入に努め、道産米を使用した米飯、道産小麦を原料にしたパン、地場産品の鹿肉を献立に取り入れた。地元生産者から寄贈された食材（ホタテ貝柱、玉葱、ホタテ稚貝）を活用した給食を提供した。 				

事業成果	<p>3 栄養教諭による食に関する指導 栄養教諭が小・中・義務教育学校を訪問し、給食時間に指導を行うほか、家庭科などの時間を活用し、食に関する教育を実施した。</p> <p>4 食物アレルギー等を有する児童生徒への代替食等の対応 食物アレルギーを持つ児童生徒に対し、代替食の提供又は代替食の提供ができない場合は給食費の減額による対応を行った。</p> <p>5 厨房機器の計画的な更新 平成11年の開設時に導入した、厨房機器の経年劣化に対応するため、厨房機器を更新した。(令和元年度～4年度の年次更新)</p> <p>6 物価高騰に伴う子育て世帯への給食費負担軽減 食料品価格の高騰による子育て世帯の負担を軽減するため、給食費を昨年度と同額に据え置きとした。</p>
課題	<p>調理場の衛生管理の徹底及び、安全安心な食材を確保する取り組みを継続する必要がある。給食に活用できる地元食材を確保する取り組みを継続する必要がある。残食調査等を通じて、適正な分量の給食を提供する取り組みを継続する必要がある。</p> <p>学校給食を教材とした、栄養教諭による食に関する指導を継続する必要がある。アレルギーを持つ児童生徒の状況を学校生活管理指導表により把握し、適切な代替食を継続して提供する必要がある。</p> <p>調理器具を始めとする給食センター施設の点検等を通じ計画的な更新を行う必要がある。</p> <p>食料品価格の上昇分をすべて給食費に転嫁せず、子育て世帯の負担軽減を継続する必要がある。</p>
改善方策	<p>調理委託業者への指導、賄い材料納入業者の選定等を通じて、安心安全な食材確保に努める。</p> <p>施設内の衛生管理を徹底し、安全な給食の提供に努める。</p> <p>学校給食センター運営委員会等の意見を取り入れた献立の改善に努める。</p> <p>地元産食材の購入を継続し、献立への活用に努める。</p> <p>残食調査等を通じて、適正な分量の給食を提供する取り組みを継続する。</p> <p>栄養教諭による食に関する教育の研究推進に努める。</p> <p>食物アレルギー等を持つ児童生徒の状況についての適切な把握を継続する。</p> <p>給食センター施設の点検を継続し、計画的な更新を継続する。</p> <p>給食費の上昇を抑制し、負担軽減を継続する。</p>

(2) 社会教育

No.	1	事業名	社会教育振興事業（家庭教育）	担当課	社会教育課
執行方針	<p>家庭教育については、子育て世代包括支援センターと連携を密にし、情報提供や相談窓口の開設、家庭教育研修会の開催など支援体制の充実を図ってまいります。</p>				
事業内容	<p>1 家庭教育研修会の開催 2 健康こども課との事業協力 3 家庭教育相談の実施 4 生涯学習振興奨励事業補助金の活用</p>				
事業成果	<p>1 家庭教育研修会の開催 テーマ 『子どもたちの健やかな成長を願って』 講習会①「子どもの食事・栄養と発育」 講師 (社) ヨガセラピスト協会北海道局 吉田香織氏 講習会②「健やかな心と身体を育むマッサージ」 講師 経絡エステ「サロン コロラ」経営 本間早苗氏 内容 講習会の実施により参加保護者同士がつながることで、仲間づくりのきっかけとし、家庭教育の重要性についての啓発を実施。10名参加。 2 教育アドバイザー、子育て世代包括支援センター等による連絡会議を行い、家庭教育支援と子育て支援の連携強化が図られた。 3 家庭教育相談の実施 教育アドバイザーにより随時教育相談に対応した。 4 生涯学習振興奨励費補助金の活用による母親サークル等による活動支援実績なし。</p>				
課題	<p>地域としてゆるやかに支えあう家庭教育支援が、家庭の教育力を向上させ、引きこもりや不登校、社会格差、虐待など複雑かつ深刻化する問題を未然に防ぐ効果があることを広く啓発する必要がある。 集団で活動する機会が減少し、孤立しがちな子育て世代を支援するため、ボランティアを育成する必要がある。 一方で、現代社会において、地域による教育力向上には限界もあるため、行政機関の連携により課題の把握と適切な支援を図る必要がある。</p>				
改善方針	<p>保護者を取り巻く環境の変化への理解や家庭教育支援の必要性の理解を深める研修事業を充実する。 家庭教育への意識を高める学習活動を支援する。 母親サークル等の育成と支援を充実させ、交流機会を拡充する。 子育て世代包括支援センターや図書館など関係機関との連絡体制をつくり、連携を図る。</p>				

No.	2	事業名	社会教育振興事業（青少年教育）	担当課	社会教育課
執行方針			<p>青少年教育については、豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を高めながら、達成感を得て成長を促す取り組みが重要であります。</p> <p>このため、小学生の体験塾や青少年指導センター事業などにより学習機会の提供に努めるとともに、中高生リーダーの養成にも努めてまいります。</p> <p>また、友好都市である新篠津村との小学生交流事業を3年ぶりに開催し、集団生活を通じた歴史・文化を学ぶ活動や、友好と交流の輪を広げてまいります。</p> <p>さらに、地域のリーダーとしての活躍が期待される青年層にとっては、職種を超えた仲間づくりや、地域の青年組織の結びつきを深める取り組みが重要であります。</p> <p>このため、全町的組織である青年団体協議会の活動を支援しながら若者の社会参加を促進してまいります。</p>		
事業内容			<ol style="list-style-type: none"> 1 各種体験活動の実施 2 地域子ども会・青少年指導センターへの活動支援 3 小学生・中学生リーダー養成や成人指導者の活用 4 青年団体協議会の育成・援助の実施 		
事業成果			<ol style="list-style-type: none"> 1 各種体験活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> 各種団体との連携により体験事業を実施し、集団生活体験の場を提供した。 (1) 児童宿泊研修会 全町の小学5年生を対象 42名参加 (2) 子ども会リーダー研修会（夏季・冬季） 小学生延14名、中高生リーダー延10名、成人指導者延8名 (3) 湧別町・新篠津村友好都市交流事業 湧別町4名、新篠津村9名の児童及び中・高校生ボランティア7名、昼食ボランティア8名が参加 (4) 新春交歓カルタ大会及び百人一首教室 <u>中止</u> (5) 湧うゆう湧くわく体験塾 35名参加 年間12回実施 2 地域子ども会・青少年指導センターへの活動支援 <ul style="list-style-type: none"> 地域子ども会の活性化を図るべく、地域青少年指導センター（地域子ども会連合組織）の事務局運営を支援した。 3 小学生・中学生リーダー養成や成人指導者の活用 <ul style="list-style-type: none"> 1の各種体験活動及び青少年指導センター主催事業を通じて、小学生リーダー研修、中学生リーダー研修事業を実施した。 湧うゆう湧くわく体験塾の活動にあたっては、町内の成人指導者を講師として活用し地域教育力の向上を図った。 4 青年団体協議会の育成・援助の実施 <ul style="list-style-type: none"> チューリップフェアや屯田七夕まつりにおいてイベントを開催するなど、少人数ながら、地域での活動を精力的に実施した。また、1月から3月に行われたニューススポーツ de あそびに参加し、異業種間の交流が図られた。会員数15名 		

課題	<p>自然体験や対人での体を使った遊びの機会が減少しているため、体験活動の提供やコミュニケーション能力の養成が必要。</p> <p>地域に愛着と誇りを持ったリーダー・指導者を小学生から高校生・青年まで一貫して育成する必要がある。</p>
改善方策	<p>地域の特性を生かした体験学習活動の機会を提供し、豊かな人間性の養成を図る。</p> <p>異世代や異年齢との交流機会の拡充により、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域教育力の向上を図る。</p> <p>小学生や中学生のリーダー養成及び、地域の成人指導者の活用を図る。</p> <p>小学生～中学生～高校生～青年が一貫して活動できるような事業展開を図る。</p> <p>青少年指導センターや児童センターなど関係機関との連携を図る。</p>

No.	3	事業名	社会教育振興事業（成人教育）	担当課	社会教育課
-----	---	-----	----------------	-----	-------

執行方針	<p>成人教育については、幅広い学習ニーズに応える学習機会の提供と、学習意欲を喚起することが必要であります。</p> <p>このため、民間団体により開催されている「町民大学」や「ふるさと講座」など自主的な活動がさらに活発になり、町民の学習機会が充実するよう、社会教育関係団体の支援に努めてまいります。</p>
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 湧別町民大学の開催支援 2 地域住民が主体的に組織的に学習活動を継続するための支援 3 P T A団体への助成 4 生涯学習振興奨励事業補助金の活用
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 湧別町民大学の開催支援 町民有志で構成する実行委員会により、各ジャンルの講師を招き、町民に対し今日的課題や地域課題等の解決に向けた学習機会を提供した。 5回開催、延422名参加 2 地域住民が主体的に組織的に学習活動を継続するための支援 「ふるさとから学ぶ会」との共催により郷土学講座を開催。 第10回我がまち湧別町のお宝をたずねる旅 58名参加 第12回ふるさと講座「流水とオホーツク海」の開催。53名参加 3 P T A団体への助成 補助により、研修会に参加するなど学習活動が行われた。 4 生涯学習振興奨励事業補助の活用 ゆうべつアウトドアクラブ YU-PAL とオホーツクオーケストラの自主事業グループ2団体に対し補助を行った。
課題	<p>湧別町の歴史、産業、自然等を学ぶ機会を提供する必要がある。</p> <p>時間的余裕のない成人期のニーズや、退職後の世代の多様なニーズに応えられるよう、情報提供も含め参加し活躍する場を創出する必要がある。</p> <p>世代間交流、異業種間交流を推進し、まちづくりの人材育成を図るため、企画等、町の他部局との情報共有も含めた連携強化が必要。</p> <p>学習を支援するコーディネーターを育成する必要がある。</p>

改善 方 策	<p>「ふるさと講座」は、町域単位での郷土学の機会提供のみならず、小さな地域における指導者の養成と活動の広がりをもつて支援する。</p> <p>「町民大学」は、来場者数を目標とするだけでなく、参加者（団体）や実行委員と講師とのつながりをより深めるなど、人材育成の側面も意識した事業展開や職域を巻き込んだ事業展開を奨励する。</p> <p>幅広い学習ニーズに応える学習機会の提供と学習意欲を喚起する。</p> <p>お互いの仕事や暮らしを知り、地域を知ることにつながる学習活動を支援する。</p> <p>自主的に企画し実践するサークルなどの活動支援を充実する。</p> <p>気楽に参加し、進んで活動できるよう情報の提供に努める。</p>
--------------	--

No.	4	事業名	社会教育振興事業（高齢者教育）	担当課	社会教育課
-----	---	-----	-----------------	-----	-------

執行 方 針	<p>高齢者教育については、「チューリップ生きがい大学」を中心に学習機会の提供を行っておりますが、新規会員の減少が課題となっております。</p> <p>このため、新たにアクティブシニアをターゲットにした事業展開も進め、高齢者の学びを支え、生きがいのある充実した生活に繋げていただけるよう支援してまいります。</p>
--------------	---

事業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1 チューリップ生きがい大学の開設 2 世代間交流事業の実施 3 アクティブシニアの向けの事業の実施
--------------	--

事業 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1 チューリップ生きがい大学の開設 105名入級 集会等11回開催 新型コロナウイルスの影響により一部の学習会が中止となったものの、講演会、レクリエーション等の開催および学生の主体的な取り組みとしてのクラブ活動への支援により、高齢者の学習機会及び活動機会を提供した。 2 世代間交流事業の実施 湧ゆう湧くわく体験塾「昔の遊び体験」をチューリップ生きがい大学生が支援し、体験活動を通じた世代間交流の機会を提供した。 3 アクティブシニア向け（おおむね60歳以上）の事業の実施 自分の興味のあるジャンルについて3ヵ月単位で学ぶ「学びすとカレッジ」を開催。全12講座 延49名 高齢者のスマートフォン所有率が高くなってきているため、スマートフォン教室を開催した。13名参加
--------------	---

課 題	<p>「高齢者学級」では、主体的な取り組みに対し継続支援が必要。高齢者が持つ知識や経験、技能を地域や次世代に伝える機会を提供し、生きがいを持てるようにする必要がある。</p> <p>家にこもりがちな高齢者に、地域の身近な情報を提供するとともに、より参加しやすい少人数でのグループ活動などの場を創出する必要がある。</p> <p>アクティブシニアに対する学習機会を確保し、活躍の場を提供する必要がある。</p>
--------	--

改善 方 策	<p>高齢者の興味関心を呼び起こす事業を創設する。</p> <p>高齢者学級の参加者による自主活動の促進と充実を図る。</p> <p>次の世代に伝承する異世代間交流事業を充実する。</p> <p>知識や知恵を持つ高齢者を把握し、活かすようコーディネートを充実する。</p> <p>少人数でも気楽に参加しやすい環境づくりに努める。</p> <p>高齢者学級と他団体との連携を図る。</p>
--------------	---

No.	5	事業名	社会教育施設	担当課	社会教育課
-----	---	-----	--------	-----	-------

執 行 方 針	<p>社会教育施設については、児童から青年、成人、高齢者に至るまで、すべての年齢の方々に、学習や研修、スポーツや趣味を楽しむ機会を提供することができる生涯学習活動の拠点となる施設でありますので、安心して施設を利用できるよう計画的な整備を図ってまいります。</p> <p>本年度から、水銀灯の製造中止に伴う照明器具のLED化を計画的に取り進めることとし、本年度は湧別総合体育館外灯と湧別プールの照明を更新いたします。</p> <p>文化センターさざ波では、老朽化に伴う故障や事故を未然に防ぐため、舞台吊物装置改修を本年度を初年度とした整備計画に基づき取り進めることとするほか、外壁塗装については5か年計画の最終年として実施いたします。</p> <p>また、両文化センターにおけるインターネット環境の充実、五鹿山スキー場のリフト設備改修などを計画しております。</p> <p>さらに、パークゴルフ場と野球場などについては、町民の利便性を高めるために、使用期間と使用時間を拡大してまいります。</p>
------------------	---

事 業 内 容	<p>1 社会教育施設の整備充実</p> <p>2 屋外スポーツ施設の使用期間・使用時間の拡大</p>
------------------	---

事 業 成 果	<p>1 社会教育施設の整備充実</p> <p>町民のニーズを踏まえ利用しやすい管理運営や定期的な保守点検・修繕等を通じて適正な維持管理を行った。</p> <p>(1) 照明LED化工事(湧別プール42灯・湧別総合体育館外灯4灯)</p> <p>LED照明に更新したことにより、経費の節減とともに利用者の利便性が図られた。</p> <p>(2) 舞台吊物装置改修工事(文化センターさざ波)</p> <p>文化センターさざ波舞台吊物工事を実施したことにより、舞台吊物装置の安全な使用ができるようになり、利用者の安全を確保することができた。</p> <p>(7期計画1期目)</p> <p>(3) 建物塗装工事(文化センターさざ波)</p> <p>文化センターさざ波タワー部塗装及びコーキング、正面カーテンウォール雨漏り補修を実施したことにより、外観を維持し、施設をより長く使用できることとなった。(5期計画最終5期目)</p> <p>(4) 情報通信ネットワーク環境整備工事(文化センターさざ波・TOM)</p> <p>情報通信ネットワーク環境整備工事を実施したことにより、リモートワー</p>
------------------	--

	<p>クやWEB会議、デジタル技術を活用したイベント事業等に対応することができ、利用者の利便性を図ることができた。</p> <p>(5) リフト設備改修工事（五鹿山スキー場）</p> <p>リフトの緊張索及び緊張索誘導滑車軸の交換及び整備を実施したことにより、施設の保全が図られた。また、利用者の安全性が向上した。</p> <p>2 屋外スポーツ施設の使用期間・使用時間の拡大</p> <p>健康増進とスポーツ振興を図る観点から、利用者のニーズを踏まえて開設期間を拡大することで利便性を高めることができた。また、パークゴルフ場の日の出から日没までの利用を可能としたことで、利用者が増加した。</p>
課題	社会教育施設の適正な維持管理や計画的な整備の充実に努める必要がある。
改善方策	<p>芭露畜産研修センター及びファミリースポーツセンターの整備について、利用状況とかかる経費を踏まえ、長期的視点から方向性を提案する。</p> <p>文化センターさざ波・TOMの両館の特徴を活かした有効活用に努める。</p> <p>町民のニーズを踏まえながら、利用しやすい社会教育施設の計画的な設備の更新や改修等と適正な管理運営、利用実態に即した開館を目指す。</p>

No.	6	事業名	スポーツ活動振興事業	担当課	社会教育課
-----	---	-----	------------	-----	-------

執行方針	<p>生涯にわたってスポーツに親しむことは、体力の向上や、精神的ストレスの発散、生活習慣病の予防など、健康で文化的な生活を営むうえで極めて大きな意義があります。</p> <p>このため年齢層に応じたスポーツ大会や教室を開催し、生涯スポーツの推進に努めてまいります。</p> <p>体育協会をはじめスポーツ少年団などの団体育成については、その活動の支援を図るとともに、スポーツ指導者の育成に努めてまいります。</p> <p>また、運動指導職員による健康運動教室やトレーニング室での運動指導、利用者個人に合ったトレーニングメニューの提供のほか、ニュースポーツなどを通じて気軽に運動に親しむきっかけづくりを新たに進め、町民の体力づくり、健康づくりの推進に努めてまいります。合わせて、学校や団体などのスポーツ指導に、運動指導職員を積極的に派遣してまいります。</p> <p>柔道や合気道などの合宿誘致事業などについては、交流人口の増加や町民への実技指導、交流などが図られるよう引き続き支援を行い、スポーツの普及と振興に努めてまいります。</p> <p>また、各種団体活動や少年団活動において優秀な成績を収め、全道大会などへ出場する際の支援について、継続的に実施してまいります。</p>
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 大会の開催 2 スポーツ教室・講習会の開催 3 スポーツ推進委員事業の開催 4 スポーツ団体活動の育成援助 5 湧別町立学校施設の開放事業

事業成果	<p>1 大会の開催</p> <p>(1) 第47回自治会対抗町民300歳バレーボール大会 参加チームが2チームであったため、大会が成立せず中止した。</p> <p>(2) 第37回サロマ湖100kmウルトラマラソン 新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。代替大会としてスマートフォン用のランニングアプリを活用した、「オンラインチャレンジ」を実施 参加者4,066名、完走者3,486名、完走率85.7%</p> <p>(3) 湧別町少年柔道大会「湧別町少年柔道大会～上野カップ2022～」 小・中学生の全道規模の柔道大会を、学年ごとに入れ替わりで試合を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた上で3年ぶりに開催することができた。また、三井住友海上女子柔道部の上野雅恵監督が直接、選手への指導や激励を行ったことにより、次世代のオリンピックを目指す子ども達の意識の高揚が図られた。</p> <p>2 スポーツ教室・講習会の開催</p> <p>(1) 町民ランニング教室、ボルダリング教室、ジュニアスイミングスクール、クロスカントリースキー教室などを実施し、町民がスポーツに親しむ機会の提供と技術向上に資することができた。</p> <p>(2) 健康運動教室、運動指導 湧別総合体育館において月2回の運動教室やトレーニング室の利用者に対し、運動指導や個別相談を実施し、町民の健康や体力づくりの増進に努めた。</p> <p>3 スポーツ推進委員事業の開催 スポーツ推進委員が研修を通じて資質向上を図り、町内小学1年生から3年生を対象に5月から翌年3月まで毎月1回開催している「チャレンジスポーツスクール」において、様々なスポーツを体験する機会を提供した。</p> <p>4 スポーツ団体活動の育成援助 スポーツ少年団、体育協会への運営費助成を行うことにより、町内における自主的なスポーツ活動の推進を支援した。 体育協会主催の「五鹿山マラソン2022」では、オホーツク管内より110名の参加があり、町民の体力増進や健康づくりを高めるきっかけづくりを図ることができた。 スポーツ・文化合宿誘致事業では、駒澤大学合気道合宿など3件の合宿が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。 スポーツ・文化遠征費補助事業では、団体や個人に対して全道・全国大会への遠征の経費の一部を助成することにより、町内のスポーツの振興を推進した。</p> <p>5 湧別町立学校施設の開放事業 湧別町立学校施設の開放事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、児童・生徒の安全確保のため中止した。</p>
課題	<p>スポーツニーズが多様化している一方、少子高齢化によるスポーツ団体の会員不足や子ども達の体力の低下、スポーツ離れ、指導者不足などを解消する方策を検討する必要がある。</p> <p>各年齢に応じたスポーツ習慣が形成されるよう、だれもがいつでもスポーツに親</p>

課題	<p>しむ機会を提供する必要がある。</p> <p>指導者の発掘・養成や体育協会・スポーツ少年団などの関係団体の支援体制の充実に努める必要がある。</p>
改善方策	<p>ライフステージに応じた各種教室、講習会、大会などスポーツに親しむ機会を提供し、健康や体力づくりの増進と住民相互の交流の推進に努める。</p> <p>多種多様なスポーツニーズに対応するため、ニュースポーツの研究・普及に努める。</p> <p>体育協会やスポーツ少年団など関係団体の育成と自主的な活動支援に努める。</p> <p>町民のスポーツ活動を推進する指導者の育成や養成を図り、指導体制の充実に努める。</p> <p>著名な外部講師等の招聘により、技術向上の習得に努める。</p> <p>スポーツ推進委員の連携強化を図り、町民のスポーツの推進や健康増進に努める。</p> <p>運動指導職員による町民の体力に応じた運動プログラムの提供に努める。</p> <p>体育協会やスポーツ少年団、自治会、関係団体等の連携を図り、町民みんなで楽しめる生涯スポーツの推進に努める。</p>

No.	7	事業名	芸術文化活動振興事業	担当課	社会教育課
-----	---	-----	------------	-----	-------

執行方針	<p>音楽や芸能などの芸術文化は、観る者に感動や生きる喜びをもたらすだけでなく、自らの創作活動意欲を高めるなど、生活に潤いを与え、欠かすことのできないものであります。</p> <p>本年度においても優れた芸術文化に触れる機会を提供するため、幼児・児童・生徒、そして一般町民に合った良質な芸術鑑賞事業を開催するとともに、町民有志団体による芸術鑑賞事業へ支援してまいります。</p> <p>また、文化連盟をはじめとする文化サークルの活動を継続的に支援し、豊かな人間性を育む芸術文化の普及振興に努めてまいります。</p>
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 文化団体活動の育成・支援 2 各世代のニーズに合った鑑賞機会の提供 3 学習の成果を活かす場としての発表機会の提供 4 体験事業及び文化活動に親しむ教室の開催
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 文化団体活動の育成・支援 文化連盟及び芸術鑑賞企画団体の事業費を補助し、自主的活動推進を支援した。 2 各世代のニーズに合った鑑賞機会の提供 幼児から一般向けの鑑賞機会の提供では、芸術鑑賞企画団体主催を含め、多様な事業を実施し、多くの町民が芸術文化に触れる機会を提供した。 3 学習の成果を活かす場としての発表機会の提供 文化連盟が実施する総合文化祭での展示発表、芸能発表を支援した。また、文化センターさざ波ギャラリー及び文化センターTOMにおいて、文化連盟加盟団体や町民個人等の作品展示を実施し、町民の主体的な文化活動を支援した。 4 体験事業及び文化活動に親しむ教室の開催 小学生向けに2講座（木工教室、パラパラブックワークショップ）、一般向けに1講座（フラワーキャンドルランタンワークショップ）を実施し、文化活動の体

事業成果	<p>験機会を提供した。</p> <p>また、小学生向けに実施した子どもアート体験事業については、6月から8月の2ヶ月間で講師の神田山陽氏と参加者が文通やワークショップを通じて桃太郎のサイドストーリーを制作し発表することで、コミュニケーション力や論理的思考力が身につき、発想力、想像力が養えた。4名参加</p>
課題	<p>心の糧となる芸術・文化活動は、一般はもとより、これからを担う青少年の創造的な能力を伸ばすためにも、大きな役割を果たすものとして充実していく必要がある。</p> <p>鑑賞と創造が両輪となった芸術・文化活動を推進するためにも、芸術文化にふれる機会を提供する必要がある。</p>
改善方策	<p>町民ニーズをふまえた上で、質の高い芸術文化作品の鑑賞機会の提供に努める。</p> <p>青少年が芸術文化に触れる機会の拡充に努める。</p> <p>カルチャー教室、各種体験事業、ワークショップなどの実施により、芸術・文化に親しむ機会の提供に努める。</p> <p>文化連盟を始め、各種文化団体の活動を支援する。</p> <p>芸術文化奨励事業補助等制度の活用促進に努める。</p> <p>学習の成果を活かす場として、町民ギャラリーや総合文化祭等の活用を努める。</p> <p>芸術・文化事業の情報提供に努める。</p> <p>道や他市町村、北海道文化財団等の関係機関との連携を図る。</p> <p>文化連盟、芸術鑑賞団体、各種文化団体と連携し、芸術文化の振興に努める。</p>

No.	8	事業名	博物館・文化財保護活動	担当課	社会教育課
執行方針	<p>ふるさと館 J R Y ・郷土館については、収蔵資料の整理を進め、適正な保存に努めてまいります。</p> <p>また、本年度も学校教育との連携による体験型学習プログラムの提供や展示などを継続し、町民が歴史文化に触れる機会を提供してまいります。</p> <p>文化財については、遺跡を保護し、次世代に伝えていく必要があります。</p> <p>平成30年度より実施している北海道指定史跡「シブノツナイ堅穴住居跡」の発掘調査を継続し、専門家による調査検討委員会の開催、出土資料の科学分析などを行い、遺跡の範囲や年代を確認してまいります。</p>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 文化財保護の実施 <ol style="list-style-type: none"> (1) 埋蔵文化財の保護 (2) 自然関連文化財の保護 2 博物館資料の整理・保管・展示・収集の実施 3 博物館調査研究の実施 4 博物館教育の実施 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研修・学校授業の実施 (2) 博物館講座の実施 				

事業成果	<p>1 文化財保護の実施</p> <p>(1) 埋蔵文化財調査 道指定ながら詳細が不明である「シブノツナイ 堅穴住居跡」の調査のため、町主体の発掘調査・科学分析を実施し、情報の収集を行った。 開発行為に伴う埋蔵文化財の保護活動として、開発事業者との事前協議等を実施した。</p> <p>(2) 自然関連文化財の保護 アッケシソウ群落は経過観察として写真記録を実施した。</p> <p>2 博物館資料収集・整理・保管・展示の実施 収蔵庫の管理と保管資料の状況確認、郷土史理解のために重要な資料の選別と整理、資料寄贈への対応等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シブノツナイ 堅穴住居群出土資料の整理を行った。 ・旧芭露小学校体育館の収蔵の準備作業を行った。 ・「収蔵資料展」を JRY とさざなみで実施した ・シブノツナイ 堅穴住居群調査速報展を実施した。 <p>3 博物館調査研究の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シブノツナイ 堅穴住居跡」について北海道立北方民族博物館公開講座において発表した。 ・ふるさと講座「流水とオホーツク」において講演を行った。 ・新赴任教員用資料更新増補を行った。(遺跡のミカタ、湧別町の過去と現代) <p>4 博物館教育の実施</p> <p>(1) 研修・学校事業の実施 博物館が持つ過去の生活情報の内、日常生活に活用できるものを体験学習化し、町内学校の授業及び各種研修会に歴史学習の機会を提供した。 学芸員による出張授業を実施した。</p> <p>(2) 遺跡調査報告会の実施 令和4年度 発掘調査成果報告会 参加 32名</p>
課題	<p>埋蔵文化財では町内に所在が確認されている埋蔵地が57ヵ所あり、自然文化財では北海道指定文化財のアッケシソウ群落がある。これらの文化財を次世代に確実に渡すための方策を立案・実行する必要がある。</p> <p>郷土の歴史資料は、安定的な保管方法を確立する必要がある。また、それらの公開方法も検討する必要がある。</p> <p>教育活動においては効果的な展示方法及び学習効果の高い普及活動を研究し実施する必要がある。</p>
改善方策	<p>1 文化財保護の実施 次世代へとつなぐために埋蔵文化財の保護環境の整備に努める。 アッケシソウ群落の保護のため、塩生植物の経過観察に努める。</p> <p>2 博物館資料収集・整理・保管・展示の実施 収蔵している石器、土器類の分類整理を進め、湧別地区の先史文化の調査研究を行う。 郷土館において、先史の展示の充実に努める。</p>

改善 方 策	<p>収蔵資料の系統的分類整理を進め活用に備える。</p> <p>資料の長期的、安定的保存のために保存環境を整える。</p> <p>収蔵資料の安定的確保のために常設展示での収蔵展示を進める。</p> <p>次世代を担う子どもたちに理解しやすい展示づくりを行う。</p>
	<p>3 博物館調査研究の実施</p> <p>埋蔵文化財保護活動を充実させるため、町内遺跡に関する調査研究を進める。</p> <p>日常生活への応用が可能な資料に関する調査研究を進めて、展示・教育普及活動へ活用する。</p> <p>学会や研修会への参加など、学芸員の専門性・教育力を高めるための機会を拡充する。</p>
	<p>4 博物館教育の実施</p> <p>文化財（埋蔵文化財・記念物）を知る機会提供に努める。</p> <p>博物館学習の内容充実に努める。</p> <p>出張学習の内容充実に努める。</p> <p>広報を活用し、博物館活動の周知に努める。</p>

No.	9	事業名	図書館活動振興事業	担当課	社会教育課
-----	---	-----	-----------	-----	-------

執行 方 針	<p>図書館については、学習活動の重要な拠点であります。そのため、本の購入、展示、質問への対応などの図書館機能の充実に努めてまいります。</p> <p>子どもの読書活動を推進する取り組みをまとめた計画である「子どもの読書活動推進計画」に基づき、ブックスタート事業、学校図書支援、移動図書館車運行、さらには各ボランティアとの協働による読書機会の提供などを行ってまいります。</p> <p>「子どもの読書活動推進計画」は、関係機関・団体、教育関係者などにより構成される「湧別町子どもの読書活動推進計画策定委員会」によって平成30年度に策定されました。計画期間が令和4年度までの5か年計画であることから、本年度あらたな「子どもの読書活動推進計画」の策定を行ってまいります。</p> <p>また、小中学生に対しましては、各学校と十分連携を図りながら、学校図書室の整備支援をはじめ、学級配本や移動図書館車の運行などを実施し、読書普及活動の推進に努めてまいります。</p>
	<p>事業内容</p> <p>1 図書館資料の収集、整理、保存、利用者への読書案内、及び図書等の貸し出しの実施</p> <p>2 各種事業の実施</p> <p>3 各種機関、団体との連携、協力</p>

事業成果	<p>1 図書館資料の収集、整理、保存及び図書等の貸し出しの実施 図書館資料の収集選定方針及び除籍基準により、蔵書管理を行い、町民の読書要求に応え、貸出や情報提供を実施した。 蔵書冊数 14, 3214冊（中湧別76, 022冊、湧別67, 192冊） 貸出冊数 59, 661冊（図書59, 174冊、視聴覚 487点）</p> <p>2 各種事業の実施 感染症対策の環境を整えながら、ブックスタート関連事業、特別展示の開催や、郷土資料のデジタル化を行い読書に親しむ機会を提供した。 第2次「湧別町子どもの読書活動推進計画」を策定した。</p> <p>3 各種機関、団体との連携、協力 学校図書館用図書の選定協力や、蔵書管理を補助し、児童生徒の読書推進活動を行った。</p>
課題	<p>あらためて読書の重要性が見直され、読書活動を支える社会基盤として「図書館が果たす役割」は、ますます高まっています。</p>
改善方策	<p>町民の読書傾向をふまえ、中湧別図書館と湧別図書館を特徴付けた選書を行い、新鮮な図書を購入する。</p> <p>中湧別・湧別2館それぞれが持つ特徴を活かした展示等を行う。</p> <p>ネットワークを活用した読書環境を整備する。</p> <p>郷土資料のデジタル化を行い、インターネットで公開する。</p> <p>適切な移動図書館車運行を実施し、町内全域に向けて読書活動を推進する。</p> <p>学校をはじめとする教育施設や保育・福祉施設との連携を図る。</p> <p>子どもの読書活動推進計画により、子どもたちの読書環境を整備する。</p> <p>図書館ボランティアとの連携強化に努める。</p>

4 事業実績表

(1) 令和4年度学校教育事業の実績表		
事業名	事業内容等	実績等
教育委員会事務局事業	教育アドバイザーの配置 特別支援教育支援員の配置 中高一貫教育推進事業 湧別高校存続対策事業 教職員健康診断事業 学校運営協議会	教育アドバイザーを2人配置した。 特別支援教育支援員は、上湧別小学校1人、中湧別小学校2人、湧別小学校4人を配置した。 中高一貫教育については、湧別高校と町内2中学校と1義務教育学校の連携による教育活動を推進し、中高一貫教育推進会議に運営費2,344千円を助成した。 湧別高校存続対策事業については、教科書等購入費補助事業1,657千円、学力向上推進費補助事業3,572千円、部活動用具等購入費補助事業197千円、部活動クリニック費補助事業109千円、部活動合宿遠征費補助事業748千円、学校体育文化活動費補助事業633千円、生徒会補助事業769千円、通学費補助事業7,727千円、部活動交通費補助事業83千円を助成した。海外交流費はコロナウィルスの影響により事業が実施されなかったため助成がなかった。 教職員健康診断事業については、人間ドック受診者に係る費用を負担したほか、83人の教職員を対象に健康診断を実施した。 学校運営協議会は全ての学校に設置されており、計22回の会議を開催し、延べ180名の委員が出席した。
教職員住宅整備事業	住宅営繕の実施	教員住宅の維持管理を実施した。
外国語指導助手招へい事業	JETプログラムによりカナダから2名任用、プライベートでニュージーランドダーフィールドハイスクールを通じて1名任用し、通年3名体制で各学校へ派遣	各小・中・義務教育学校及び湧別高校へ外国語指導助手として派遣するほか、児童センターにも派遣した。
小学校管理運営事業	学習サポート事業 ヘルメット購入補助事業 各種健診事業 通学費補助事業 新型コロナウイルス感染症対策事業 教材等整備事業 就学援助（要保護・準要保護、特別支援学級在籍児童） 学校体育文化活動費助成事業	長期休業中に湧高生を小・義務教育学校に派遣し、学習サポート事業を実施した。小学生延べ345名、高校生延べ80名が参加した。 ヘルメット購入費補助については、13件の申請があった。 各種健診事業については、児童に対し、尿検査、内科検診、歯科検診、耳鼻咽喉科検診、眼科検診、心臓検診、結核検診を実施した。 通学に係る支援状況については、町営（スクール）バスの無償利用の他、営業バス利用者への定期券購入費助成、芭露学園児童について公用車による送迎を実施した。 新型コロナウイルス感染症対策として、各学校において、感染症対策や教員の研修機会の確保、児童に対する学習保障を行うために必要な消耗品や備品等の整備を行った。 教材用消耗品・学校用図書・学校用備品等を計画に基づき整備した。 就学援助では、要保護児童2名、準要保護児童15名、特別支援学級在籍児童6名に対し就学費を援助した。 学校体育文化活動費助成については、小学校の学校教育活動に定める課外活動の大会参加に対し、2件、509千円の助成を行った。

<p>中学校管理運営事業</p>	<p>各種健診事業 通学費補助事業 新型コロナウイルス感染症対策事業 教材等整備事業 就学援助（要保護・準要保護、特別支援学級在籍生徒） 学校体育文化活動費助成事業 上湧別中学校テニスコートフェンス改修工事 上湧別中学校乗用型芝刈り機購入</p>	<p>各種健診事業については、生徒に対し、尿検査、内科検診、歯科検診、耳鼻咽喉科検診、眼科検診、心臓検診、結核検診を実施した。 通学に係る支援状況については、町営バスの無償利用の他、営業バス利用者への定期券購入費助成、芭露学園生徒について公用車による送迎を実施した。 新型コロナウイルス感染症対策として、各学校において、感染症対策や教員の研修機会の確保、児童に対する学習保障を行うために必要な消耗品や備品等の整備を行った。 教材用消耗品・学校用図書・学校用備品等を計画に基づき整備した。 就学援助では、要保護生徒2名、準要保護生徒14名、特別支援学級在籍生徒8名に対し就学費を援助した。 学校体育文化活動費助成については、中・義務教育学校の学校教育活動に定める課外活動の大会参加に対し、19件、4,394千円の助成を行った。 上湧別中学校のテニスコートフェンスについて、老朽化のため改修工事を実施した。 上湧別中学校の乗用型芝刈り機について、老朽化のため更新を行った。</p>
<p>義務教育学校整備事業</p>	<p>湧別地区義務教育学校増築工事（R3・R4継続事業） 湧別中学校大規模改修工事 工事監理業務（増築工事・大規模改修工事） 外構整備工事 遊具設置工事 管理備品整備 上湧別地区義務教育学校整備工事せ渓業務</p>	<p>湧別地区における小中一貫教育の推進を図る目的で、施設一体型の義務教育学校を設置するにあたり、小学校棟（前期棟）の増築工事、湧別中学校大規模改修工事）、外構整備工事、遊具設置工事及び児童・生徒の机・椅子など管理備品の整備を行った。 また、上湧別地区における施設一体型義務教育学校の整備に向け、基本設計、実施設計及び改修工事実施設計業務を実施した。</p>
<p>国際理解教育事業</p>	<p>パートナー交流プログラム事業。 一般町民対象英会話教室 ALTによるポスター作成及び国際交流事業</p>	<p>交換留学事業、相互交流事業が中止になったことから、中高生を対象としてパートナー交流プログラム事業を実施した。3名の中高生が参加し、英会話の事前学習とZoom交流合わせて11回開催し、5か月間に渡ってパートナーとオンライン交流を続けた。 一般を対象にした英会話教室を8週を1回とし、3回開催した。すべて対面で実施することができ、18名が参加した。 ALTによる異文化や英会話を紹介する内容のポスターを毎月作成し、各学校や公共施設に貼り出した。 学校の長期休業期間中には、小学生英会話事業を実施したり英語でクッキングの動画をYouTubeで公開した。</p>
<p>学校給食センター事業</p>	<p>町内小・中・義務教育学校及び保育所等に給食を提供する。 栄養教諭による食の指導を行う。 食料品高騰に伴う負担軽減を行う。</p>	<p>計画どおり給食の提供を実施。 給食対象校等の数 11施設（小学校5、中学校2、義務教育学校1、保育所等3） 給食対象人員数 809人（小学校328人、中学校188人、義務教育学校56人、保育所等237人） 年間給食総数 171,078食（小学校65,600食、中学校38,540食、義務教育学校11,480食、保育所等55,458食） 栄養教諭が、小学校4校、中学校1校、義務教育学校1校に延べ21回訪問し、食に関する指導を実施し、小学校2校、義務教育学校1校の調理場見学を受け入れた。 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（原油価格・物価高騰対応分）を活用し、食料品高騰に伴う給食費を据え置きとし、子育て家庭の経済的負担を軽減。</p>

令和4年度社会教育事業実績表

領域	事業名	期 日		計 画 内 容	予算額	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
		場 所			実績額 (事業終了のみ)		
基 盤	①生涯学習 情報の収 集・提供・ 相談体制の 充実	年 間		○情報収集と提供 ・生涯学習情報紙「湧く湧く」の発 行（毎月） ・遠軽地区情報紙「なな・なんと情 報」の発行（2カ月に1回） （湧別町が当番町） ・町ホームページによる情報の体系 的整理と提供 ・動画による事業記録を収集し活用 法を模索 ○相談体制の充実 ・生涯学習に関する相談体制の整備 に努める。	「湧く湧く」 印刷製本費 1,212千円	○情報収集と提供 ・生涯学習情報誌「湧く湧く」の毎月発行 ・遠軽地区情報誌「なな・なんと情報」の偶数月発行。 ・町ホームページによる事業PR（4月～2月） まちの話題 記事数89件（前年同時期59件） ・動画により一部事業を記録保存し、活用法を模索して いる。 ○相談体制の充実 ・地域住民の学びと活動に関する相談に随時対応してい る。	10-1 10-3
		—			「湧く湧く」 印刷製本費 1,066千円		
	②指導者の 発掘・養 成・活用	年 間		主体的な学習と地域貢献との好循環 をすすめるため、様々な分野から指 導者を発掘養成し、その活用を図 る。	—	教室や講演のほか事業の企画にあたって、随時講師に関 する情報を収集し活用を図った。	
	③団体活動 の支援・育 成	年 間		団体リーダーの養成を図るととも に、団体活動が円滑に行われるよう 支援を行う。	—	団体の規模や体力をふまえて、主体的な取り組みに向け ての協力を行った。	10-4
	④生涯学習 振興奨励事 業	年 間		グループ・サークル等が主体的に行 う講演会や鑑賞会などの学習活動に 対して助成を行う。（補助率75%、 ただし極めて公益性が高い場合は 100%）	3件 300千円 2件 95千円	6/18～19フラワーウォッチングサギ沼・五鹿山 ゆうべつアウトドアクラブYU-PAL：50,000円 8/14第1回オホーツクオーケストラ演奏会 オホーツクオーケストラ：45,000円	
備	⑤施設の整 備・運営・ 連携	年 間		公共施設再配置計画など上位計画と の整合を図りながら、施設の計画的 な補修や整備を行うとともに事業連 携・施設間連携により学習効果の向 上を図る。	別紙施設整備計画 のとおり	別紙社会教育施設整備計画に記載するとおり	10-2 10-5
		—					
家 庭 教 育	①家庭教育 研修会	12/11(日)		家庭教育が困難な現状の共通理解と 家庭教育の重要性を啓発するための 研修会。講演後に参加者交流会を開 催。健康こども課と連携し、ニーズ の把握に努め定着を図る。PTA連合 会へ後援、家庭教育サポート企業に 協賛依頼予定。	講師謝礼 100千円 需用費8千円 講師謝礼 40千円 需用費6千円	テーマ「子どもたちの健やかな成長を願って」 講師 吉田香織氏(子どもの食事・栄養と発育) 本間早苗氏(子どもの姿勢・骨格とマッサージ) ～講演の合間に交流会を開催 一般参加者7名(うち町外5名)、運営協力者3名 主催:教育委員会 後援:PTA連合会、健康こども課 協賛:家庭教育サポート企業、湧別町農業協同組合	1-1
	②健康こ ども課との 事業協力	年 間		健康こども課との打合せ会議を開催 し、子育て支援センター、子育て世 代包括支援センターとの協力体制の 充実を図る。	—	家庭教育支援と子育て支援の連携強化に向けた打ち合わ せ会議の開催 ・9/7実施(子育て相談担当、教育AD、社会教育担当) ・議題 家庭教育研修会について	1-3 1-4
	③家庭教 育相談	年 間		教育アドバイザーによる子育ての不 安や悩みについて身近に相談する機 会を提供するため、ホームページの 充実を図る。	—	校長と教育AD間の連絡により随時教育相談に対応して いる。 特に必要とする数名の保護者に対しては、直接の面談も 含め継続的に相談をしている。	1-2
少 年 教 育	①児童宿 泊研修会	6/16(木)～ 17(金)		社会性を培う機会として、全小学校 5年生合同で、体験活動を実施。担 当教職員の事前打合せと反省会も行 い、目的や役割分担の共通理解やノ ウハウの蓄積を図る。	参加費57千円 (2,500円×1/2 ×45人) 需用費15千円 バス借上料98千円 参加費72千円 (1人3,350円× 1/2助成) 需用費21千円 バス借上料104千円	全小学校の5年生42名、教諭9名、教委2名が参加 各種体験活動を通して、社会性を培う機会を提供。 4/22、5/26担当者会議を開催。担当教諭の連携を密 に、スムーズな運営に努めた。また次年度生かすため 7/21反省会議を実施。	2-1 2-4
		ナイバル 北見					
育	②子ども 会の育成・援 助	年 間		青少年指導センターの活動支援とあ わせ、単位子ども会や湧別地区サ ポート協議会のあり方について指導 助言する。	補助金 250千円 補助金 170千円	子ども会員十育成者（保護者）合計688名（昨年757 名）（子ども会安全会加入者数より） 青少年指導センター事務局を教育委員会が支援（関連事 業に掲載）	2-2
		—					

少年	③第1回子ども会リーダー研修会	7/28(木)~29(金) 五鹿山公園	住民自治の基盤ともなる地域子ども会の主体的な活動が進むよう、子ども会のリーダーとしての役割や心構えを学び、そのために必要な知識や技術の習得をめざす。また、青少年指導員の養成と活躍の機会とする。	青少年指導センター 会計から支出	小学生9名参加、リーダークラブの中学生6名が企画・運営。高校生のリーダークラブ1名、青少年指導員4名が参加。集団での生活を通してリーダー養成の研修や縦のつながりができた。	2-1 2-2 2-3
	④第2回子ども会リーダー研修会	R5.3/11(土)~12(日) 紋別市生涯学習センター			小学生5名参加、リーダークラブの中学生2名が企画・運営。高校生リーダークラブ1名、青少年指導員4名が参加。集団での生活を通じてリーダー養成の研修や縦のつながりができた。	
年	⑤百人一首教室	11月~1月 毎週土曜日 農村センター	日本古来の伝統の競技を通して、ルールを守る大切さや礼儀作法を身につける機会とする。教室で継続指導することで、指導者と参加者の地域におけるつながりづくりも目指す。また、指導者の育成を図り実行委員会の活性化を促す。大会は実行委と教委との共催。小1~大人まで対象。	報償費48千円 需用費61千円	9/26実行委員会を開催。感染症対策を講じた上での実施は難しいなどから協議の結果、教室、大会ともに中止とした。	2-1 2-3
	⑥第54回新春交歓カルタ大会	R5.1/22(日) 農村センター		0円		
教	⑦湧うゆう湧くわく体験塾	年間 (月1回程度)	小学校4~6年を対象に体験の機会を提供し、知的探求心、地域への愛着とコミュニケーション能力を養成する。また、成人ボランティアの指導を仰ぐことで地域の教育力活用を図る。	報償費35千円 需用費20千円	小学生35名登録。 4/23 入塾式(28名) 5/14 チューリップフェアボランティア(22名) 6/18 パークゴルフ体験(21名) 7/23 川釣り体験(雨天中止) 8/6 昔遊び体験(14名) 9/17 愛ランドYOUで仲間づくり(19名) 10/15 湧別の歴史を知ろう!(14名) 11/19 Xmasリースづくり(8名) 12/17 ネイチャークラフト(14名) 1/14 氷下釣り体験(20名) 2/11 流氷&スノーハイク(16名) 3/18 開塾式と交流会(12名) 協力：パークゴルフ協会、生きがい大学生、網走西部森林管理署、ゆうべつアウトドアクラブ	2-1 2-2 2-4
		町内ほか		報償費29千円 需用費33千円		
育	⑧湧別町・新篠津村友好都市青少年交流事業	8/2(火)~4(木)	自然や産業体験活動など、児童の派遣と受入の交流を毎年交互に行うことで、お互いのまちの魅力を学ぶとともに交流の輪を広げる。小学校5~6年およびリーダーとして、中・高校生も参加。小学生は参加経費の半額、リーダーは全額町負担。	報償費180千円 需用費150千円 保険料16千円 入浴料39千円	湧別町4名、新篠津村9名の小学生及び中高校生のボランティア7名(湧別4名)が参加し、今年度は湧別町で実施。仲間づくりゲームや郷土学習、漁業体験などを通して交流を深めることができた。昼食作りボランティア8名	2-1 2-2 2-4
		五鹿山キャンプ場ほか(受入年)		報償費94千円 需用費62千円 保険料5千円 入浴料17千円		
青年	①青年団体の育成・援助	年間 青年会館ほか	子どもを対象とした事業、屯田七夕まつりでの出店などを行っている湧別町青年団体協議会を支援し、将来の地域のリーダー育成を図る。	補助金 160千円	4/9総会を開催。会員数15名。 5/14,15チューリップフェアイベント開催(14名) 5/25 チャレンジデー(ミニバレー)(15名) 7/16,17屯田七夕まつりイベント参加(15名) 1~3月ニュースポーツdeあそび参加	3-1 3-2 3-3 3-4
				補助金 160千円		
教育	②令和5年20歳の集い	R5.1/8(日) 文化センター さざ波	20才を迎えた若者を祝い励ますとともに、社会人としての意識高揚を図る。町主催、教委主管。成年年齢引き下げ(R4)後も20歳を対象とする。 ※軽食ボランティアとの協働 ※現小学6年生に「20歳の自分へ」の作文収集	報償費415千円 需用費41千円	式典出席者62名、同行者44名、Youtubeでのライブ配信最大同時接続数37名 交流会は感染症対策のため軽食提供はせず、出席者主体のアトラクションを開催。	3-1
			報償費328千円 需用費31千円			
成人	①第46回湧別町民大学	9月~11月 全5回 文化センター TOM	有志実行委員会組織主催。各ジャンルの講師を招き、今日的課題や地域課題等の解決に向けた学習機会を提供する。団体とのコラボ企画や、勤労世代の参加促進にも努める。町PTA連合会との連携事業。	運営費助成 2,000千円	6/9、8/9、R5.2/15に実行委員会を開催。 9/30東出俊一氏(72名)、10/6藪中三十二氏(104名)、10/26北川聡子氏(68名)、11/10関根摩耶氏(95名)、11/24増田隆一氏(83名)	4-1 4-2 4-3 4-4
		運営費助成 1,217千円				

成人教育	②第12回ふるさと講座	11/26(土)	町の人を講師に、地域の価値を学び共感する機会提供のための座学講座。郷土学サークル「ふるさとから学ぶ会」との共催で行う。今回のテーマは「流水とオホーツク海」	講師謝礼 40千円	高橋修平氏(道立オホーツク流水科学センター所長)、中島一之氏(JRY館長)、石垣誠一氏(漁師)を講師に、「流水とオホーツク海」をテーマにオホーツク海がどのような海か流水との関わりから学んだ。一般参加者53名	4-1 4-2 4-3 4-4
		文化センター さざ波		講師謝礼 35千円		
	③第10回我がまち湧別町のお宝をたずねる旅	5/14(土)	普段見落としがちな町の価値(ニお宝)を、それに詳しい講師の案内によってバスツアー形式でたずね歩き価値を共有する。昨年、一昨年中止となった「五鹿山」の魅力を感じ取る企画	講師謝礼10千円 借上料55千円	澤口政一氏(東町)、白幡美栄子氏(港町)を案内人に、五鹿山の花や野鳥などを紹介する。(写真協力山本昇氏) 参加人数58名	4-2 4-4
		五鹿山公園		講師謝礼15千円		
④PTA団体への援助	年間	各学校のPTAやその連合組織である町PTA連合会の学習活動を支援する。	補助金 180千円	連合PTA事業運営費の補助を実施。	4-2 4-4	
	-		補助金 83千円			
⑤ボランティア団体との連携	年間	はまなすボランティアなど自主的な奉仕活動を支援する。	-		4-2 4-4	
高齢者教育	①チューリップ生きがい大学の開設	年間 (月1回程度)	高齢者が充実した生活を送られるよう学習活動の機会を提供する。自主活動としてのクラブ活動も支援する。	報償費252千円 需用費36千円 印刷製本費83千円 借上料629千円	105名入級、6クラブ。 4/19 開講式(65名) 5/17 アイヌ文化講演会(33名) 6/8 町内バスツアー「湧網線」(46名) 7/12 日帰り研修旅行「網走市」(53名) 8/22~24 宿泊研修旅行(中止) 9/15 健康体操(27名) 10/18 マジックショーと講演(47名) 11/16 日赤看護大出前講座(42名) 12/6 クラブ活動発表の会(68名) 1/19 講演会(34名) 3/8 開講式・お楽しみ交流会(82名) ※新型コロナの影響により宿泊研修が中止となった。	5-1 5-2 5-3 5-4
		文化センター TOM・さざ波ほか		報償費154千円 需用費9千円 借上料236千円		
	②世代間交流事業・社会活動参加奨励	年間	学校からの求めに応じ、小中学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を図る。	-	8/6湧ゆう湧くわく体験塾「昔遊び体験」の講師として生きがい大学生7名が参加	5-1 5-2 5-3 5-4
		学校ほか				
③【新規】アクティブシニア向け新規事業	年間	自分に興味があるジャンルについて3カ月単位で学ぶ「短期大学事業」、自ら設定した学習状況などを教育アドバイザーが定期的に指導する「通信制大学事業」、資格にとらわれず特技や趣味を活かした「人材バンク事業」を実施し、アクティブシニアの新たな学習の機会を提供する。	報償費20千円	○短期大学事業 第1期(4~6月) 2講座20名 第2期(7~9月) 2講座19名 第3期(10~12月) 3講座21名 第4期(1~3月) 4講座24名 ○通信制大学事業 申込みなし ○人材バンク事業 登録者2名		
	R5 3/10(金)	文化センター さざ波		-	町内に住むおおむね60歳以上の方を対象として実施し、基本的なスマートフォンの操作を学んだ。申込締切り後にも問い合わせがあるなどこれからのニーズもあると感じた。 参加人数13名	
振興・文化活動の育成	①文化団体の育成援助	年間	芸術文化活動の振興を図るため文化連盟等の育成援助を行う。	補助金 350千円	加盟団体22団体を擁し、湧別町文化連盟として活動。総合文化祭などの文化活動を展開する。令和4年度においては、展示部門を10/15・16で開催。芸能部門を10/30に開催。	6-2 6-4
		-		補助金 144千円		
	②鑑賞機会提供団体の育成援助	年間	①良いもの見よう聞こう会の活動支援 ②企画委員会ビッグ・ウェーブの活動支援 ③その他実行委員会等への活動支援	補助金 8,000千円	①良いもの見よう聞こう会 2公演実施 ②企画委員会ビッグ・ウェーブ 0公演 (11月に解散) ③その他実行委員会 0公演	6-1 6-2 6-4
各文化センター			4,027千円			

芸 術	③幼児芸術鑑賞会	7/14(木) 7/15(金)	幼児対象(2日2公演) 公演内容 「きりがみマジック和楽器コンサート」 南Ezo'n music	公演料 500千円	南Ezo'n musicによる「きりがみマジック和楽器コンサート」公演 7/14 文化センターさざ波 児童75名 保育士9名 一般観覧 5名 計89名 7/15 文化センターさざ波 児童77名 保育士10名 一般観覧 1名 計88名 合計177名鑑賞	6-1
		文化センター さざ波		公演料 462千円		
文 化	④児童芸術鑑賞会	9/8(木)	小学生全学年対象 公演内容 「海底2万マイル」 劇団ポプラ	公演料 825千円	劇団ポプラによる「海底2万マイル」公演 9/8 児童237名 教員49名 合計286名鑑賞 町内小学校・学園前期全学年鑑賞。	6-1
		文化センター さざ波		公演料 825千円		
文 化	⑤中学・高校生芸術鑑賞会	10/5(水)	中学・高校生全学年対象(1公演) 公演内容 「真夏の夜の夢」 株式会社猫文化事業局	公演料 500千円	「半崎美子スペシャルコンサート」(湧別高校含) 1/26 文化センターさざ波 生徒284名 教員35名 合計 319名 ※「真夏の夜の夢」は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	6-1
		文化センター さざ波		一般公演に含む		
文 化	⑥一般芸術鑑賞会	11/8(水) R5.1.27(金)	町民対象(1公演) 公演内容 寄席公演 榎影向舎	公演料 3,500千円	①秋の湧別寄席2022公演 日程 11月8日(水)19:00開演 場所 文化センターさざ波 売上枚数 273枚、入場者数252名 ②半崎美子コンサート 日程 1月27日(金)18:30開演 場所 文化センターさざ波 売上枚数 408枚、入場者数398名	6-1
		文化センター さざ波		公演料 ①3,443千円 ②5,914千円 (一般・学生向け・ 曲制作含む)		
活 動	⑦子どもアート体験事業	6~8月	国内外で活躍するアーティストが学校や文化施設に出向き、子ども達と一緒にワークショップや創作活動を行い交流する事業。講師：神田山陽氏	-	こどもアート体験事業「文通でつむぐ物語講座～あなただけの桃太郎～」 6月～8月の2か月間で講師の神田山陽氏と文通やワークショップを通して桃太郎のサイドストーリーを制作した。8/4に作品朗読発表会を実施。参加者4名。	6-1 6-4
		文化センター さざ波				
振 興	⑧文化芸術作品展示会等の奨励	年 間	湧別町文化連盟加盟団体や町民個人を中心に、絵画や写真などの展示を実施し、芸術文化活動の振興を図る。	-	(1)文化センターさざ波ギャラリー展示 ①4/13~28 ふるさと館JRY「昔の写真展」 ②6/28~7/18 伊藤栄二「絵画展」観覧数475名 ③7/20~8/5 神山利彦「写真絵画展」観覧数148名 ④9/17~19ソーイングさくら・菅野素子「パッチワーク・紙ねんど展」観覧数164名 ⑤10/25~11/9 楽々給手紙の会「給手紙展」観覧数205名 ⑥1/24~2/5こどもスペースばすてる「児童作品展」80名 (2)文化センターTOMギャラリー展示 常設展示～写真、俳句、友好都市交流	6-2 6-3 6-4
		各文化センター				
大 会 の 開 催 等	⑨カルチャー教室	年 間	子どもから大人までを対象に興味や一般教養など町民のニーズに合った講座等の開催に努める。	講師謝礼 80千円	(1)子ども木工教室 8/5(金)老人憩いの家木工室 小学生15名参加 (2)バラバラブックワークショップ 12/10(土)文化センターさざ波 小学生16名参加 (3)フラワーキャンドルランタンワークショップ 12/18(日)文化センターさざ波一般14名参加	6-1
		町内施設		講師謝礼 53千円		
大 会 の 開 催 等	①第37回サロマ湖100kmウルトラマソン【中止】	6/26(日)	100kmスタート午前5時00分(100kmの部) 総合体育館裏(東道路上) ※スマートフォンを活用した代替大会を検討	負担金 3,000千円	密集回避の対応が極めて困難で、大会参加者はもとより、大会運営にご尽力いただく審判員、ボランティアスタッフ、開催地域の健康と安全を確保するため中止。 (代替大会名)サロマ湖100kmウルトラマソンオンラインチャレンジ (開催期間)6/26(日)~7/23(土) (種 目) ①1day100km②1day50km ③2weeks100km ④2weeks50km ⑤4weeks100km (結 果) 参加者4,066名、完走者3,486名、完走率85.7%	9-1 9-2 9-3 9-4
		湧別総合体育館裏		負担金 900千円		

大会の開催等	②湧別町少年柔道大会「上野カップ2022」	10/9(日)	本町のふるさと応援大使であり、柔道オリンピックメダリストの上野姉妹の冠を掲げた全道規模の小・中学生の柔道大会を開催することにより、少年相互の親睦を深め、町の活性化や交流人口の増加を図る。 参加規模：道内外小・中学生400名 大会には上野姉妹のほか、現役の女子柔道の著名人を招致する予定。	歳入総額 2,986千円 参加料700千円 スポーツ振興くじ 2,286千円 歳入総額 3,593千円	新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で開催し、会場内の混雑を避けるため、試合を学年ごとに4区分に分割して行った。令和元年度まで行われていた、大会前日の柔道教室や当日のサイン会、柔道教室などのイベントは開催せず、大会のみ絞って行われた。湧別の特産品が当たる抽選会は実施。(抽選会の対象は参加者)	9-1 9-2 9-3 9-4
	③第47回町民300歳バレーボール大会	12/4(日)	自治会对抗形式9人制バレーボール大会	消耗品31千円 食糧費33千円 0円	参加チームが2チームであったため、大会が成立せず中止。(開催要項において3チーム以下の場合は開催を中止すると明記)	
スポーツ教室・講習会事業	①町民ランニング教室	8/13(土)	基本姿勢から高度な技術、さらには運動前後のストレッチを習得することで、運動能力の向上や怪我の予防、運動を始めるきっかけづくりを図る。 ①ランニング教室 ②陸上教室 講師:作AC北海道代表 作田徹氏 他作AC北海道メンバー6名 対象:①中学生以上の部 ②小学生の部	講師謝礼 120千円 講師謝礼 120千円	当日は、気温が高い状況で熱中症対策のため、参加者に対し、水分補給やマスクを外して良いことなどの周知を行った。 ①中学生以上の部 7名 ②小学生の部 35名	9-1 9-2 9-3
	②ポルダリング体験教室	R5.3/5(日)	ポルダリングの基礎を学び楽しみ方を味わわせるとともに、技法を習得させる。 講師:遠軽高校山岳部監督 畑野和宏氏 対象:小学生	講師謝礼 10千円 0円	講師:遠軽高校山岳部顧問 畑野和宏氏、遠軽高校山岳部生徒9名 参加者:低学年の部13名、高学年の部8名	
	③スラックライン体験教室	9/4(日)	スラックラインの基礎を学び楽しみ方を味わわせるとともに、技法を習得させる。 講師:北海道スラックライン代表 山森和也氏 他サポート副代表 山森千恵子氏、アマチュア全国1位山森さほ氏 対象:指導者、小学生〜一般	講師謝礼 60千円 講師謝礼 60千円 スポーツ推進委員報酬13千円	指導者に対して向けの教室を実施し、乗る、両足で降りる、片足でバランスを取るなどスラックラインの基礎を学んだ。小学生の部では、スラックラインの他にニュースポーツ「ディスプレイ」の体験も行った。 ①指導者の部 7名 ②小学生の部29名	
スポーツ教室	④ジュニアスイミングスクール	第1回目 7/12(火)~15(金) 第2回目 8/23(火)~26(金)	正しい泳法を習得させるとともに、泳ぐことの楽しさを味わわせ、水泳の普及拡大を図る。 講師:野口美代子(トッカリ湧波会) 藤田千秋(トッカリ湧波会) 絹張洋史(教育委員会職員) 三浦菜畝(運動指導職員) 対象:小学生	講師謝礼 48千円 講師謝礼 48千円	新型コロナウイルス感染症対策のため、プールと2階更衣室を貸し切りにし、更衣室では密にならないよう5名ずつ入室させた。 【第1回目】 7/12・13:2年生の部(14名)28名、3~6年生の部(14名)26名 7/14・15:1年生の部(16名)31名 【第2回目】 8/23・24:2年生の部(14名)24名、3~6年生の部(14名)16名 8/25・26:1年生の部(13名)18名	9-1 9-2 9-3
	⑤【新規】ニュースポーツdeあそび	1月~3月	町内の成人層を対象にスポーツを通じて健康や体力づくりを高めるきっかけづくりと新しいスポーツの普及や地域の活性化を図る。 指導者:運動指導職員 三浦菜畝 対象:18歳以上の町民(高校生を除く) 全5回(1月~3月)ニュースポーツ等を実施。	- スポーツ推進委員報酬26千円	バブルサッカーやモルックなどニュースポーツを体験することにより異業種間の交流が図られた。 第1回目1/17(火)バブルサッカー 13名 第2回目1/31(火)バブルサッカー 5名 第3回目2/14(火)モルック 9名 第4回目2/28(火)モルック 9名 第5回目3/14(火)モルック 14名	
会事業	⑥ジュニアスケート教室	R5.1/10(火)~1/13(金)	初心者に対してスケートの楽しさを味わわせるとともに、技法を習得させる。 講師:久保拓也(芭露) 松本桃子(芭露) 藤本祐司(教育委員会職員) 対象:小学生	講師謝礼 12千円 講師謝礼 21千円	3つのレベルに分けて行った。基本的な姿勢や滑り方を学んでもらい、時折ゲームや遊びを交えながら教室を行った。 1/10(火)30名、1/11(水)30名、1/12(木)29名、1/13(金)29名	

ス ポ ー ツ 教 室 ・ 講 習 会 事 業	⑦クロスカントリースキー教室	R52/4(土) 五鹿山スキー場	スキーの楽しさを味合わせるとともに、初心者から上級者まで幅広い技法を習得させる。 講師：NPO法人北海道ライフスポーツ推進協会 理事長 島田 武彦 氏 対象：小学生～一般町民	講師謝礼 60千円 スポーツ推進委員 報酬7千円 講師謝礼 60千円 スポーツ推進委員 報酬7千円	スケート技術やスキーの操作などを学び、技術の向上が図られた。また、指導者育成を含む指導を行っていただいた。 中・上級者の部(一般)10名	
	⑧健康運動教室	4月～3月 湧別総合体育館	トレーニング器具等を使った個人(または集団や団体)指導を行うことにより町民に健康維持増進と体力の向上を図る。 担当：運動指導職員 三浦菜畝 対象：18歳以上の町民(高校生を除く)	-	準備運動としてラジオ体操、ウォーキングを行った後、様々な運動を実施した。 4/23(土)骨盤体操 12名 5/14(土),21(土)コアトレーニング 26名 6/ 4(土),18(土) リズム運動 27名 7/ 9(土),23(土) ウェーブストレッチ34名 8/ 6(土),20(土) レジスタンス運動 24名 9/24(土) ラジオ体操第1 5名 10/15(土),10/29(土)ストレッチボール 15名 11/11(金),11/16(水),12/14(水) 椅子でできるストレッチ・筋トレ運動 14名 1/13(金)体幹トレーニング 9名 1/20(金),2/10(金),2/20(月),3/3(金),3/13(月) 椅子でできるストレッチ・筋トレ運動 45名	9-1 9-2 9-3
	⑨運動指導	4月～3月 湧別総合体育館他	①湧別総合体育館トレーニング室指導 水・金(9:00～11:00) 火・木(14:00～16:00) ※曜日・時間に変更する可能性有 ②個別運動相談・トレーニングメニュー作成 ③保健福祉分野との連携 担当：運動指導職員 三浦菜畝 対象：一般町民	-	湧別総合体育館トレーニング室に常駐し、筋力運動、有酸素運動の指導や運動相談・トレーニングメニューの作成などを実施。 4月:28名、5月:37名、6月:28名、7月:24名、8月:21名、9月:中止、10月:6名、11月:5名、12月:7名、1月:7名、2月:13名、3月:6名 【保健福祉分野との連携】 福祉課 大筋クラブでの指導 【その他】JAゆうへつ町女性部への指導	
ス ポ ー ツ 推 進 委 員 事 業	①チャレンジスポーツスクール事業	5月～3月 湧別総合体育館他	低学年から様々なスポーツに触れることで、自分に合ったスポーツを見つけ出すきっかけづくりと、学校を越えた友達づくりの一助とする。 【事業内容】 5月 五鹿山マラソン・入学式(五鹿山ロッジ) 6月 フットベース(湧別総合体育館裏) 7月 キャンプ(湧別総合体育館裏) 8月 ランニング教室(百年記念広場) 9月 スラックライン(中湧別総合体育館) 10月 風船バレー・ミニバレー(湧別総合体育館) 11月 カローリング 他(湧別総合体育館) 12月 フロアボール(湧別総合体育館) 1月 スケート体験・氷上ホッケー(芭露スケートリンク) 2月 タグラグビー(湧別総合体育館) 3月 ミニ運動会・卒業式(湧別総合体育館) 指導者：スポーツ推進委員 対象：小学1年生～3年生	講師謝礼 パークゴルフ 5千円 フロアボール 10千円 タグラグビー 5千円 スポーツ推進委員 報酬269千円 講師謝礼 フロアボール 10千円 タグラグビー 5千円 スポーツ推進委員 報酬106千円	スポーツ推進委員が中心となり、様々なスポーツを実施した。感染対策を十分講じた上で、3年ぶりにキャンプを実施することができた。 5/ 8(日)五鹿山マラソン・入学式 42名 6/11(土)フットベース 26名 7/29(金)～30日(土)キャンプ 29名 8/13(土)ランニング教室 20名 9/ 4(日)スラックライン 23名 10/22(土)風船バレー・ミニバレー 19名 11/12(土)カローリング 他 13名 12/10(土)フロアボール 16名 1/21(土)スケート体験・氷上ホッケー 10名 2/18(土)タグラグビー教室 9名 3/ 4(土)ミニ運動会・卒業式 24名	9-1 9-2 9-3
	②巡回スポーツ指導	随時 町内	自治会・老人クラブ等の要請に基づき、スポーツ推進委員が出向き、軽スポーツやレクリエーションの指導を行う。	スポーツ推進委員 報酬13千円 スポーツ推進委員 報酬4千円	2/12(日)5の3自治会スポーツ交流会 カローリング指導1名	9-2 9-3

スポーツ推進委員事業	③スポーツ推進委員研修	随時	町民のスポーツ活動の的確な支援を行うため、研修を通じて委員としての資質向上を図る。 遠軽・紋別地区スポーツ推進委員研修会	スポーツ推進委員報酬128千円	9/10(土)滝上町 遠軽・紋別ブロックスポーツ推進委員等研修会 スポーツ推進委員4名	9-2 9-3
		管内 管内	オホーツク管内社会体育振興セミナー 北海道スポーツ推進委員研究協議会	スポーツ推進委員報酬90千円	10/12(木)～13(金)釧路市 北海道スポーツ推進委員研究協議会 スポーツ推進委員3名 10/29(土)訓子府町 オホーツク管内社会体育振興セミナー スポーツ推進委員4名	
団体活動の育成援助等	①少年スポーツ団体の育成援助	年間	少年団本部への補助	補助金600千円	湧別町スポーツ少年団本部への補助	9-2 9-4
		—	—	補助金600千円	—	
	②一般スポーツ団体の育成援助	年間	体育協会への補助	補助金735千円	湧別町体育協会への補助	
		—	—	補助金735千円	—	
③大会出場助成	年間	全道大会以上の出場者に対して遠征費の一部を助成する。 (湧別町スポーツ・文化遠征費補助金)	補助金2,000千円	15件(個人8件、団体7件)		
	—	—	補助金1,225千円			
④合宿誘致助成	年間	合宿を誘致することにより町のスポーツの振興を図る。 (湧別町スポーツ・文化合宿誘致事業補助金)	補助金1,464千円 詳細は別紙関連事業に記載のとおり	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。		
	各施設	—	0円			
施設の整備活用	①施設の整備	年間	施設の点検、適正な維持管理を図る。	詳細は別紙社会教育施設整備計画のとおり	別紙社会教育施設整備計画のとおり	9-4
		各施設	—	—		
②施設の活用	年間	指定管理施設の適正かつ効率的な運営に対する監督、学校開放施設に関する利用調整など体育施設の有効活用を図る。	学校開放運営報償120千円	学校開放については、新型コロナウイルスの影響による児童・生徒の安全確保のため中止。		
	各施設	—	0円			
その他	①スポーツ安全保険の加入促進	随時	広報及び事故手続き等の補助	—	ホームページやかわらばん等において周知し、保険の加入促進を図った。	9-2
図書館活動	①図書館資料の収集、整理、保存	通年	両館を特徴付けた選書を行い、それぞれに蔵書を区分し保存する。 ・資料等計画的に幅広く豊富に備え、適切な蔵書構成を維持する。 ・貴重資料のデジタル保存	資料費(図書、雑誌、新聞、視聴覚)8,270千円	<蔵書冊数> 図書 中湧別 76,022冊+湧別 67,192冊=143,214冊 雑誌 中湧別 60誌 湧別 46誌 新聞 中湧別 8紙 湧別 5紙 視聴覚資料 中湧別 1,074点+湧別 1,737点=2,811点	7-1
		両館	—	—		
	②利用促進、読書機会の提供	通年	第3次社会教育中期計画策定	—	・5/31 第1回図書館協議会(現状と課題) ・10/7 第2回図書館協議会(方策) ・10/14 報告書提出 ・1/10～2/9 パブリックコメント ・2/24 教育委員会議にて承認	7-2
通年		第2次子どもの読書活動推進計画の策定	—	・7/5 第1回策定会議(委員5名) ・8/25 第2回策定会議(委員5名) ・1/25～2/24 パブリックコメント ・3/20 教育委員会議にて承認		
通年	調べものの相談、案内を通して利用促進を行う。	—	<貸出人数> ・中湧別6,502名+湧別3,319名=9,821名 (前年比較 中湧別94.9% 湧別94.5% 両館94.8%) <貸出冊数> ・中湧別27,622冊+湧別14,240冊=41,862冊 (前年比較 中湧別95.1% 湧別93.3% 両館94.5%)			

図	②利用促進、読書機会の提供	両館	<p>新着図書案内や図書館行事など、最新情報の提供に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書通帳提供 ・図書館だより、新着図書案内の発行 ・ホームページの活用 		<ul style="list-style-type: none"> ・パスファインダー、ブックガイド発行、配布 ・図書館だより、新着図書案内の発行 ・ホームページの更新 	7-2
			<p>来館が困難な町民に対して宅配便を活用して個別に配送貸出を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宅配貸出サービス 		<p>登録者 2名(会員制)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出実績 46人 327冊(延べ数) 	
書	③ブックスタート	毎月1回	<p>4ヶ月児健診時に、乳児とその保護者へブックスタートパック(絵本などが入ったバック)をメッセージと共に手渡す。また、5歳児健診時には絵本を1冊とブックガイドを渡す。</p>	資料費(絵本) 142千円	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート 33組(延べ数) 	7-2
		健診会場	<p>協力(バック制作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルピナスの会 ・協力(読み聞かせ) ・リーディング倶楽部たんぽぽ ・湧高ボランティア部 			
館	④絵本くらぶ	年間(毎月1回)	<p>3歳までの乳幼児がいる家庭におすすめ本セットを宅配する。(登録制)</p>		<p>登録者 19組(会員制)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出実績 192人 960冊(延べ数) 	7-3
		両館				
活	⑤移動図書館車の運行	通年	<p>移動図書館車で町内を巡回し、広域サービスを実施する。機動性を活かし遠隔地域を中心に据え、子どもから大人まで図書に出会う場を広げ、読書活動の推進を図る。図書館職員が選本した文庫を配本する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校、義務教育学校、湧別高校 ・各郵便局 ・児童施設 ・高齢者施設等 		<p><貸出冊数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・合計 14,547冊 内訳 個人 2,771冊(前年比較 48.6%) 団体 11,776冊(前年比較 79.9%) 	7-4
		両館				
動	⑥学校図書館支援	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス配本 ・学校図書館用図書の購入支援 ・学校図書館レイアウト相談 ・学校図書館蔵書管理、蔵書計画 ・図書館見学の受入 ・職場体験の受入 ・読書オリエンテーション ・家読おすすり絵本リスト作成配布 		<ul style="list-style-type: none"> ・クラス配本 ・学校図書館用図書の購入支援 ・調べ学習用図書整備 ・学校図書館蔵書管理、蔵書計画 ・図書館見学(芭露学園、湧別小、中湧別小、上湧別小) ・読書オリエンテーション(10/4、10/12) ・職場体験(湧別高校、上湧別中学校、芭露学園、遠軽高校) ・連携授業(湧別小学校 4年~6年) ・学習成果発表展示(湧別小学校 5年生) 	7-2 7-3
		町内学校				
動	⑦古本コーナー	通年	<p>古本、古雑誌のリサイクル活動。</p>		<p>ロビー等にて実施 累計利用数 中湧別 2,239冊 湧別 1,630冊</p>	
		両館				
動	⑧特別展示	9月~10月	<p>町民大学講師著作展示</p>		<p>町民大学講師著作展示</p>	7-2 7-3
		両館				
		年間	<p>テーマ：年中行事</p>		<p>貸出ランキング、チューリップ、子どもの日、本屋大賞、母の日、ようちえん絵本大賞、ピクニック、父の日、雨を楽しむ絵本、夏、読書最強か、七夕、海、湧別町BEST絵本100、敬老の日読書のすすめ2022、虫、のりもの、秋を感じる絵本、日本絵本賞、ハロウィン、クリスマス、お正月干支えほん、おやすみ絵本、ベストミステリー、うさぎ年絵本、ブックオブザイヤー2022、節分、このミステリーがすごい!、絵本屋さん大賞2021、だいたずきパンの絵本、ひな祭り、雪の絵本、バレンタイン、レシビ本大賞、方言絵本、動物園に行きたくなる本、おおかみと7ひきのこやぎ</p>	

図 書	◎特別展示	4/23～ 5/10 両館	子ども読書週間		「こんちゅうワールド」(中湧別図書館) 「子どもの本総選挙」(湧別図書館)	7-2 7-3
		10/27～ 12/5 両館	読書週間		10/22～11/27 「だいすき!たべもの本」中湧別図書館 10/27～11/9 「ファミリーヒストリーの調べ方」湧別図書館	
		未定 中湧別図書館	絵本原画展示	著作物使用料 30千円 著作物使用料 20千円	絵本原画巡回展 7/1～7/14 山本孝著「おぼけのきもだめし」	
		年間 両館	協力展示(展示スペースの貸出)	-	食生活サポート(健康子ども課)、教科書展(教育総務課)、鉄道展(遠紋ブロック公共図書館)	
館 活 動	◎連携・ ネットワーク	通年 両館	ボランティア、サークル育成 ・読み聞かせ活動支援(りんごっこ、リーディング倶楽部たんぼぼ、湧別高校ボランティア部)		・リーディング倶楽部たんぼぼ 毎週水曜日 湧別小学校1年～3年生読み聞かせ訪問 毎週水曜日 本の修理 ・りんごっこ 読み聞かせの実施 ・湧別高校ボランティア部 ブックスタート用名札制作、壁画制作(中湧別図書館 おはなしコーナー) ・ルピナスの会 ブックスタート用バック制作	7-4
		年3回 児童センター	児童センター事業支援 ・読み聞かせ会参加協力、読書推進 事業の実施		・リーディング倶楽部たんぼぼ 12/6、1/10、3/14 育児学級読み聞かせ ・りんごっこ 12/10 なかよし児童センタークリスマス会 ・英語でおはなし会(指導:内野静香さん) 10/8、11/12、12/10、1/14、2/9、3/11 湧別図書館	
		会議3回 研修2回 湧別図書館	図書館協議会 ・定例会議 ・委員視察研修 (遠紋ブロック研修会:遠軽町) (オホーツク管内公共図書館協議 会:遠軽町)		5/3 第1回会議 出席委員 5名 10/7 第2回会議 出席委員 3名 11/9 視察研修(遠軽町) 出席委員 1名 2/24 第3回会議 出席委員 6名	
		7月～9月 両館	・北海道教育委員会主催「本を読ん でファイターズを応援しよう」キャン ペーン参加		青少年のための200冊展示 7/20～8/30 参加者 9名	
文 化 財 保 護 活 動	①文化財の 保護(1) 埋蔵文化財	年間	○開発行為に伴う埋蔵文化財の保護 事業 ・開発事業者との事前協議 ・所在調査、試掘調査 ○埋蔵文化財包蔵地の状況把握 ・現状確認(遺跡パトロール) ・周知資料(台帳等)の整備 ◎シブノツナイ竪穴住居跡の調査 ・発掘調査:竪穴住居跡の年代等内 容確認 *7月中旬～8月中旬予定 ・発掘調査概要報告書の刊行 ○シブノツナイ竪穴住居跡調査検討 委員会の開催 ・有識者3名、国・道の担当者2名程 度 ・夏と冬の2回開催	委託料 (年代測定等) 1,037千円 印刷製本費 231千円	○開発行為に伴う埋蔵文化財包蔵地の保護活動 ・埋蔵文化財包蔵地の照会:12件 ・事前協議1件(協議継続中、他2件) ・所在調査1件 ・試掘調査0件 ・工事立会0件、慎重工事1件 ○埋蔵文化財包蔵地の状況把握 ・現状確認作業(遺跡パトロール)随時実施 ・周知資料(台帳等)の内容確認と修正 ◎シブノツナイ竪穴住居群の保護 ・遺跡の内容詳細を把握するための発掘調査 7/14～8/20 ・令和4年度発掘調査概要報告書の刊行(3/20) ・自然科学分析 ①古環境調査:周辺地形の環境復元(微化石) ②年代測定:竪穴住居跡の年代特定 ○シブノツナイ竪穴住居跡調査検討委員会の開催 第一回:7/28開催 第二回:2/22開催 委員3名、道教委1名、町教委2名 文化庁調査官現地指導:10/13～14	8-1
		町内各所		委託料 (年代測定等) 1,012千円		

文化財保護活動	②文化財の保護(2) 自然関連	年間	○北海道指定文化財アッケシ草群の経過観察 ○天然記念物の手続（死亡・はく製・調査） ・オジロフシ ・タンチョウ ○記念木業務における関連部署との調整		○（道指定）天然記念物 ・佐呂間湖畔鶴沼のアッケシソウ群落 経過観察：9月実施 ○（国指定）天然記念物 ・オジロフシ ・タンチョウ 手続（死亡・はく製・調査）：0件 ○記念木 関連部署との調整：0件	8-1
		町内各所				
	博物館活動	①博物館資料(1) 収集	年間	【開拓関連資料】 ○資料寄贈への対応 【考古資料】 ○発掘調査に伴う出土資料の文化財認定と譲与申請		○博物館資料の寄贈受入 ・寄贈資料受入6件（鉄瓶ほか） ○文化財の認定と取得 ・埋蔵文化財の譲与申請：1件 令和3年度発掘調査出土資料
郷土館・ふるさと館JRY						
②博物館資料(2) 整理・保管		年間	○考古資料 ・シブノツナイ竪穴住居群出土資料の整理 ○開拓関連資料 ・資料の保存環境整備 ○収蔵庫の管理と保管資料の状況確認 ・金属資料の清掃整理（防さび塗料塗布等） ・ガラスナガの写真の整理公開 ・資料外保管物の処分 ・JRY収蔵量増加 ・資料移動（旧邑小体育館） ○収蔵資料の特別利用許可に関する業務		○考古資料 ・シブノツナイ竪穴住居群出土資料の整理 ○開拓関連資料 ・保存環境の整備 ○収蔵庫の管理と保管資料の状況確認 ・JRY収蔵量増加 ・資料移動（旧邑小体育館） ○収蔵資料の特別利用許可 ・0件（ナウマンソウ化石など）	8-1
③調査研究	年間	【博物館資料（開拓期）の保存・活用】 ○保存 ◎屯田関連情報の収集 ○活用 ・体験活動の系統化 ・開拓期の衣食住 ・冬期の生活		【博物館資料（開拓期）の保存・活用】 ○保存 ・収蔵資料の保存に関する調査研究（害虫等） ・資料清掃および注記（大型機械、鉄道資料） 【博物館資料（開拓期）の保存・活用】 ○保存 ◎屯田資料 ○活用 ・体験活動の系統化 ・開拓期の衣食住 ・冬期の生活		
		—	【埋蔵文化財の保存・活用、博物館教育】 ○保存 （主にシブノツナイ竪穴住居群） ・竪穴住居跡の集落形成に関する研究 ○活用 ・遺跡を活用した博物館教育の実践的研究 ○その他 ・大学等研究者との共同研究		【埋蔵文化財、博物館教育】 ○事例研究 ・シブノツナイと道内竪穴住居群の比較 ○科学分析 ・シブノツナイ周辺の古環境復元 岡孝雄（北海道技術コンサル） ・擦文文化の食料分析 國木田大（北海道大学准教授） ・土器胎土分析 今泉和也（日本学術振興会特別研究員） ○教材研究 ・遺跡散策ガイドブック『遺跡のミカタ』の更新 ・シブノツナイ竪穴住居群案内パンフの試作	8-1

博物館活動	④展示	年間	<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示更新 ・解説パネルの追加 ・資料名表示の更新 ○収蔵資料展示 ・発掘調査速報展（仮） ・写真展（仮） ○収蔵展示室整備 	<p>【郷土館】</p> <p>○展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和3年度発掘調査速報展」 6/24から12/25まで ・「北の縄文展2022」（道教委主催への協力） 湧別市川遺跡の石器を出品 釧路会場：9/17～10/29 網走会場：10/30～12/1 <p>○入館者数（3月31日時点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・443名（大人357名、内町民49名、幼児～高校86名、内町民31名） <p>【ふるさと館JRY】</p> <p>○常設展示更新</p> <p>◎企画展示「収蔵資料展：絵葉書・要覧・写真編」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さざ波：4/15～4/28 ・ふるさと館JRY：5/13～5/27 <p>○入館者数（3月31日時点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2,406名（大人1,628名、内町民149名、小学～高校778名、内町民389名） 	8-1	
	⑤博物館教育(1) 学校授業・研修会・講座	年間	<p>【学校授業・研修会・講座】</p> <p>○開拓の歴史 （博物館が持つ過去の生活情報の内、日常生活に活用できるものを体験学習として実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働体験（鋸・斧・鉋） ・炊飯体験（薪ストーブ・羽釜） ・開拓期の衣体験 ・囲炉裏疑似体験（屯田生活体験館） <p>○博物館親子講座</p>	講師謝礼 70千円	<p>【学校授業、研修会等の学習機会提供】</p> <p>○授業及び展示解説実績（3月31日時点）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ふるさと館JRY 38件779名（内学校：32件710名） ②郷土館 5件95名（内学校：4件87名） ③出張講演 18件433名（内学校：16件421名） ④施設利用 9件290名 	8-3
	⑥博物館教育(2) 広報・情報提供	年間	<p>○先史文化 （文化財である遺跡に触れ、親しむ機会の提供）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先史の工夫を学ぶモノづくり学習（土器・勾玉） ・遺跡に親しむフィールドワーク ・遺跡の知識を深める講座 遺跡調査報告会（11月予定） *調査成果に応じて実施を判断する ・発掘調査の現地説明（主に学校を対象） ・発掘調査を通じた大学との連携 	講師謝礼 35千円	<p>【講座等】 （主催）</p> <p>○令和4年度遺跡調査報告会 11/19(土)、定員50名→32名（申込38名） 講師2名：①道埋蔵文化財センター 立田主査 ②ふるさと館JRY 林学芸員 （講師依頼：中島館長）</p> <p>○ふるさと講座「流氷とオホーツク海」（町内） 『記録から見るオホーツク海と人の関わり』 11/26(土)、約70名 （講師依頼：林学芸員）</p> <p>○北海道立北方民族博物館公開講座（網走市） 「シブノツナイ堅穴住居群の調査について」 11/6(日)、約20名</p>	
			【広報・情報提供】	<p>○博物館だよりの発行（湧く湧く内、HP）</p> <p>○郷土史に関する情報提供及び質問対応（レファレンス）</p>	<p>【広報・情報提供】</p> <p>○博物館だよりの発行（湧く湧く内） 4～3月号（148号～159号）</p> <p>○郷土史に関する質問対応 ・屯田兵祖先調べ、町内の遺跡など</p>	
中期計画推進項目の欄は、第2次湧別町社会教育中期計画における推進項目との対応を示すものです。						
	中期計画における領域	推進項目	表記			
	第1節 家庭教育	学習機会の提供	1-1			
		活動等の支援	1-2			
		学習環境づくり	1-3			
		連携ネットワーク	1-4			
	第2節 少年教育	学習機会の提供	2-1			
		活動等の支援	2-2			
		学習環境づくり	2-3			
		連携ネットワーク	2-4			
	⋮	⋮	⋮			
	第10節 生涯学習の基盤整備	学習推進体制整備	10-1			
		施設整備・活用	10-2			
		学習情報収集・相談	10-3			
		指導者養成・団体	10-4			
		連携ネットワーク	10-5			

令和4年度 関連事業（後援・連携事業等）

団体名	事業名	期日	場所	計画内容等	実績（状況）等	備考	
青少年指導者	子ども会フットベースボール大会	7/10(日)	上湧別百年記念公園	単位子ども会の大会への参加を通して、青少年の健全育成を図ると同時に、地域子ども会活動の促進と、相互の交流を図る。また、監督会議や反省会等を通じ、育成会で構成される組織運営の健全化を図り、地域自治の基盤づくりを支援する。	参加チームが少ないため大会ではなく交流会として開催 参加者13名を2チームに分けて4試合実施		
	子ども会交通安全駅伝競走大会	8/28(日) ⇒10/2(日)	開盛小 → 中湧別小		8/5監督会議を開催し周知参加募集したが、8/23時点で申込が1チームのみであることから役員会により10/2に延期と決定した。 湧別高校からエキシションとして参加するなど大会開催に向けて参加者を再度募集したが1チームのみの申込みだったため中止		
	子ども会交流リレーマラソン大会	8/28(日)	かみゆうべつチューリップ公園		8/28に開催を予定していた駅伝大会が10/2に延期となったことから、駅伝に参加希望のあった地区を対象に周回コースを使用したリレーマラソン大会を実施 参加チーム：4チーム28名		
	子ども会ミニバレーボール大会	11/20(日) ⇒12/4(日)	中湧別総合体育館		新型コロナの影響により学級閉鎖となったため日程を延期。参加チームが少ないため中湧別総合体育館で全試合を実施。 小学生の部：7チーム34名 中学生の部：6チーム27名		
	子ども会リーダー研修会	7/28(木)～29(金) R5.3/11(土)～12(日)	五鹿山公園 紋別生涯学習センター		社会教育事業 少年教育参照	社会教育事業 少年教育参照	
	中高生リーダーの養成	年間	ふるさと館JRYほか		リーダー研修会の企画運営などを行う、中・高生リーダークラブと、その指導にあたる青少年指導員の活動を支援し、地域づくりやまちづくりに参画できるリーダーの養成を図る。	青少年指導員：3名 中学生リーダークラブ 「CAPTAIN★TEENS」：7名登録 高校生リーダークラブ 「Rainbow prop」：1名登録 子ども会リーダー研修会企画会議2回 7/23～24事前1泊研修会 7/28～29第1回リーダー研修会 3/11～12第2回リーダー研修会	
町民会議	青少年健全育成町民会議事業	年間		青少年のたくましく健全な成長と青少年問題の理解を深めるとともに健全育成を図る。①あいさつ運動②指導、補導③青少年だより発行④優良青少年表彰	①あいさつ運動②街頭補導③青少年だより発行④優良青少年表彰		
文化連盟	総合文化祭	芸能の部 10/30(日) 展示の部 10/15(土)～16(日)	文化センターさざ波（芸能） 文化センターTOM（展示）	町内の芸術・文化関係者による日頃の活動成果の発表の機会と、町民に芸術・文化活動にふれてもらい文化の振興、発展を促します。			
良いもの見よう聞こう会	芸術鑑賞会	通年	各文化センター	8月26日（金）文化センターさざ波 清水ミチコ トーク&ライブ 9月10日（土）文化センターさざ波 ミッフィーこどもミュージカル	①清水ミチコトーク&ライブ2022 日程 8月26日(金)19:00開演 場所 文化センターさざ波 売上枚数 393枚、入場者数346名 ②ペネロペのなかよし音楽会 日程 10月1日(土)11:00開演 場所 文化センターさざ波 売上枚数 169枚、入場者数161名		
ビッグウェーブ	芸術鑑賞会	通年	各文化センター	未定	実施なし		
体育協会	ゆうべつ五鹿山マラソン2022	5/8(日)	五鹿山スキー場	五鹿山スキー場を駆け上がるマラソン大会を実施することにより、町民の体力増進や健康づくりを高めるきっかけづくりと地域の更なる一体感の醸成を図ることを目的とする。	一般の部（男子28名・女子5名） 33名 高校生（男子）の部 9名 中学生の部（男子3名・女子1名） 4名 小学生（高学年）の部 14名 小学生（低学年）の部 50名 合計110名	教委、スポーツ推進委員も運営協力	

実行委員会	スケート協会	第53回湧別町スケート大会	2/5(日)	芭露スケートリンク	1周300mシングルトラックタイムレース (男女混合学年別) 未就学児の部、小学生の部、中学生の部、一般の部、アトラクション(人間ダイビング他)	未就学児の部 5名 小学生の部 32名 一般 5名 合計42名	
		チャレンジデー2022	5/25(水)	町内	住民総参加型のスポーツイベントである「チャレンジデー」に参加し、町民の健康づくりや体力づくり、スポーツやレクリエーション活動への参加意欲の高揚と習慣化を推進する。	湧別町 対 秋田県・八峰町 人口 8,314名 6,693名 参加者 5,150名 3,949名 参加率 61.9% 59.0%	
		駒澤大学合気道合宿	7月~8月	レイクパレス	合宿中に行われる公開練習や演武会、教室等の開催により合気道の普及を図るとともに町民との交流を図る。 合宿予定人員：30名予定	新型コロナウイルスの感染症の影響により中止	
		合気道正道友和会合宿	9月	レイクパレス	町内で合宿を行い、公開練習等を通して町民と交流を図るとともに合気道の普及を図る。 合宿予定人員：10名予定		
		北柔会関連道場柔道合宿	10月	湧別総合体育館	柔道合宿のほか、町内の子ども達に対する柔道教室を開催することで、柔道の普及、交流人口の拡大を図る。 合宿予定人員：80名(指導者含む)予定		
		湧別原野林-ツカノスカウトコース大会	R5.2/26(日)	遠軽町→湧別町	原野コース80km、北大雪コース56km、遠軽コース22km、湧別コース24km、10kmコース、5kmコース、駅伝コース95km	80km(原野コース) 出走者 249人 完走者 198人 完走率 79.52% 24km(湧別コース) 出走者 101人 完走者 98人 完走率 97.03% 10kmコース 出走者 35名 完走者 35名 完走率100% 駅伝 8チーム 完走 8チーム	

令和4年度社会教育施設整備計画（500千円以上または主要なもの）				
（単位：千円）				
施設名	改修・整備等内容	事業費	実績額	備考
文化センター さざ波・TOM共通	非常用設備修繕<排煙窓>	2,200	2,090	
	情報通信ネットワーク環境整備工事	850	845	
文化センターTOM	歩道補修工事	1,200	1,155	
文化センターさざ波	舞台吊物装置改修工事（全7期中1期目）	27,000	23,430	
	建物塗装工事（さざ波タワー部 全5期中5期目）	22,600	21,450	
	音響設備取替工事（多目的ホール）	3,500	3,470	
湧別総合体育館	トレーニング機器リース機器購入 トレッドミル、アップライトバイク インパクトチェストプレス インパクトラットプルダウン インスティンクトペクトラルフライ/リアデルト インスティンクトレッグプレス/カーフ インスティンクトレッグエクステンション/カーフ 各1台（合計7台）	リース4月～ 6月3ヶ月分 325 購入987	リース4月～ 6月3ヶ月分 325 購入987	令和4年6月 30日でリー ス期間満了の ため買取
湧別総合体育館	LED化改修工事	15,300	14,179	外灯4灯
湧別プール				場内42灯
中湧別総合体育館	高圧受電設備改修工事	800	748	
湧別総合体育館	手押し式芝刈機の購入	565	561	
湧別屋内ゲートボール場	非常用放送設備工事	1,940	1,760	
五鹿山スキー場	リフト緊張索更新及び誘導滑車整備工事	6,150	5,830	
湧別図書館	暖房給湯温水器更新工事一式	7,100	6,996	工事請負費
ふるさと館JRY	メイン展示室水銀灯修繕	1,215	1,045	

5 外部評価

(1) 学識経験者

氏 名	所 属 等
岡崎 公俊	元 湧別町教育委員会社会教育課長

(2) 聴取日

令和5年8月25日（金）

(3) 主な意見

令和4年度の「教育委員会点検・評価報告書」は、令和4年度湧別町教育行政執行方針に掲げられた内容に基づき、主要な事業ごとに適切に整理区分され、事業内容や成果、課題や改善方策がまとめられており、1年間、目標を達成するため、方針に沿って事業が適切に行われていたことが窺えます。

昨年度まで大きく影響を受けていた新型コロナウイルス感染症による事業の中止や縮小も少なくなり、今までの教育活動ができた印象を受けます。まだまだ、以前と同じとはなりません。通常開催できない事業も代替事業を計画するなど、当初の目標を達成するために努力をされてきたことは、大いに評価できます。今後、この評価をさらに検証し、学校教育や社会教育において、地域住民のニーズに応じた教育の振興のためご尽力されるよう、期待します。

ア) 教育委員会の活動状況について

教育委員会は独立した行政機関として教育長と4名の教育委員による慎重審議が行われ、定期的に会議が開催されており、適正にその機能を果たしてきたものと認められます。

審議内容を見ますと、法令又は条例に基づく委員等の任命（委嘱）に関することや議会の議決を経るべき事項に関するものが多く審議されており、法令等に基づき、適切に審議されていたことがわかります。また、教育委員会議以外に教育委員の活動状況が昨年度より大きく増え、各委員が学校活動へ参加できる状況であり、学校運営や児童生徒の様子などを見る機会が戻ってきたことが窺えます。

イ) 学校教育について

令和4年度は小中一貫教育の推進を進めてこられたことがわかります。湧別地区義務教育学校の開校に向け、校舎の大規模改修を行ったほか、開設準

備委員会において開校に向けた準備を進められ、無事に開校できたことは大変評価できます。また、上湧別地区義務教育学校の開校に向けても、2回目となる地域懇談会で保護者等の意見を聞き、校舎整備に係る設計業務が実施されたことは、大きな進展だったと思います。引き続き、町内3校目となる義務教育学校の開校に向けて取り組まれることを期待します。

学力向上については、「湧別町型学校力向上事業」や主体的・対話的な深い学びを充実させる研究会等の開催、指導室と学校の連携など、様々な学力向上施策や事業を行い、授業改善や改革を行ってきたことがわかります。残念ながら、中学校においては全国学力学習状況調査では全国・全道の平均を下回る結果となったようですが、引き続き、基礎学力をつける取組や主体的で探求的な学びに取り組み、学力向上、指導力向上に向けての取り組みを進めることを期待します。

I C T教育については、「湧別町 I C T教育推進委員会」が中心となり、各学校で活発にタブレット端末の活用が進められてきたようであり、今後ますますその使用方法について研究を進められるよう願います。

特別支援教育の推進では、通級指導教室の実施や特別支援教育支援員の配置など、支援が必要な児童生徒に適切な支援を行ったと言えます。今後も早期対応に心がけ、関係機関が連携し相談体制や指導体制を整えて欲しいと思います。

湧別高校存続対策事業では各種助成が行われ、保護者の経済負担軽減や学力向上、部活動の推進に適切に支援が行われており、湧別高校進学への対策に効果があったと考えられます。

ウ) 社会教育について

社会教育振興事業では、「家庭教育」「青少年教育」「成人教育」「高齢者教育」の各世代別のニーズに対応した事業や各種団体運営支援を通じて町民の自主的な学習活動を推進する事業が実施されていたと思います。昨年度に比べ、大幅に実施事業が増えたことは喜ばしいことであり、社会教育の推進において各年代へ学習機会の提供や交流支援がされることは大変重要なことです。青少年教育におけるリーダーの養成を行ったことや、高齢者教育において新規事業が実施されたことは仲間づくりや新たな体験活動の提供に効果的であったと考えます。

社会教育施設については、計画的に整備が行われており、町民が安全安心

に施設を利用できよう管理がされております。

スポーツ振興事業では、昨年につきやむなく中止した事業があった一方で、代替え事業を実施したり、工夫を凝らした新型コロナウイルス感染症対策を行った上で再開できた事業もあり、町民がスポーツに親しむ機会の提供と健康を維持・増進する支援が行われています。

芸術文化振興事業では、文化連盟や団体の補助、自主的活動推進を支援したほか、各世代向けの事業を実施し、多くの町民が芸術文化に触れる機会が提供できています。特に、小学生や一般向けの体験事業や教室を開催することにより、参加者が文化活動に参加し、発想力・想像力を養う一助になっています。これからも生活を潤す芸術・文化に親しむ機会を提供し、文化意識の高揚が推進される取組を期待します。

博物館・文化財保護活動では、「シブノツナイ竪穴住居跡」の発掘調査が継続して行われ、情報の収集及び資料の整理、調査研究の発表などが実施されています。また、博物館が持つ情報を活用し、学校の授業や研修会、出張授業を実施したことは大変有益なことと思います。

図書館活動振興事業では、適切に資料の収集、整理、図書の貸し出し、管理が行われています。また、ブックスタート関連事業や、特別展示、郷土資料のデジタル化なども実施されており、読書に親しむ機会が提供されています。第2次「湧別町子どもの読書活動推進計画」も策定され、適切に計画がされています。

エ) まとめとして

令和4年度は徐々に新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、通常の活動へ戻って来てきたように感じます。しかしながら、感染対策を講じるには大きな負担があり、日々の活動や事業の運営には未だ大きな苦労があることと思います。そのような状況のなかでも最大限努力され、活動されてきてことに対して、関係各位に敬意を表します。教育委員会においては、この点検・評価の内容を十分に精査するとともに、これまでの取り組みを継続して実施されること、または改善方策を反映し、ますます湧別町の教育の推進のために努力されることを期待します。

6 参考資料

令和4年度

湧別町教育委員会教育行政執行方針

令和4年第1回湧別町議会定例会の開会にあたり、教育委員会の所管行政に関する主要な方針を申し上げます。

情報通信技術の高度化による Society5.0 の到来、グローバル社会の進展、新型コロナウイルス感染症対策など大きく社会が変化しておりますが、教育の使命は、大きな社会変化を柔軟に受け止め、自ら判断し行動できる「生きる力」を備え、社会に活かすことのできる人材育成であります。

教育委員会といたしましては、学校教育の柱を「知」・「情」・「意」・「体」・「郷土」と定めて、子どもたちに、確かな学力、豊かな人間性、自らを律する心、健康と体力、郷土を愛し守る心をバランスよく育ててまいります。

社会教育にあつては、基本理念を「ふるさとを知り、ふるさとを好きになり、ふるさとを守り育てる」と定め、町民一人ひとりが、心の豊かさや生きがいを持ち生活するために、いつでも、どこでも、だれもが学ぶことのできる生涯学習社会の実現に努めてまいります。

このような考えのもと、湧別町の教育目標を

- 1 社会に参画できる実践的な能力をはぐくむ
 - 2 自他を尊重し、ともに支える豊かな心をはぐくむ
 - 3 自らを律し、自ら行動する積極的な心をはぐくむ
 - 4 健やかな体と生命を尊ぶ心をはぐくむ
 - 5 自然・環境を守り、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度をはぐくむ
- 5つの教育目標を制定し、令和4年度に取り組む重点施策について申し上げます。

第一は、「地域に信頼される小中一貫教育の推進について」であります。

優れた教育環境を確保するため「湧別町の教育」の基本は、発達段階に応じた9年間のきめ細かなカリキュラムによる「小中一貫教育」の推進としております。

これを実現するため全町に9年間を見通した施設一体型義務教育学校の導入を進めてまいります。

本年度は、本町2校目となる湧別地区義務教育学校を令和5年4月の開校に向け、中学校棟の大規模改修を実施いたします。合わせてPTAや学校運営協議会などで組織する開設準備委員会、さらに教職員で組織する開校準備委員会においても、開校に向けて必要な協議を行うこととしております。

一方、上湧別地区の小中一貫教育の推進については、小学校区ごとの地域懇談会を終え、それぞれの地区から貴重なご意見などをいただきました。いただいたご意見などしっかり受け止め、町としての方向性を定め、時期を逸することなく地域とのさらなる協議を行い、上湧別地区の施設一体型義務教育学校の実現に向け取り組んでまいります。

学校の働き方改革については、長時間勤務の解消のため業務改善と職員の意識改革を進めるとともに、ICT機器を有効活用した授業の効率化を図りながら、教員のゆとりある教育活動を推進し、教員が子どもと向き合う時間の充実に図ってまいります。

第二は、「学校教育における学力向上への取り組みについて」であります。

本町の昨年の全国学力・学習状況調査での平均学力は、小学校が全国平均を上回り、また中学校においても全国平均同等まで到達することが出来ました。

この結果は、これまで実施してきた習熟度別学習などの取り組みに加え、湧別小学校を実践校として取り組んできた「湧別町型学校力向上事業」を町内すべての学校で実践した結果であり、これまでの教員が一方向的に知識を詰め込む授業スタイルではなく、子どもたちが自らの考えや意見を持ち、友達と意見交換することにより、さらに学びを深める「主体的で対話的」な授業スタイルの成果であると確信しております。

したがって、引き続き「湧別町型学校力向上事業」に取り組むほか、本年度はさらに中学校段階での「主体的で対話的」な学びを実現するために、湧別中学校と上湧別中学校を実践校として北海道大学からの講師招聘や公開授業から授業改革に取り組む、すべての学校と教員が足並みをそろえて、一層の学力向上を図ってまいります。

第三は、「ICT教育について」であります。

ICT教育については、GIGAスクール構想で配備した1人1台タブレットパソコンを教員が効率的に授業に活かすため、「湧別町ICT教育推進委員会」

を中心にして教職員のICT技術向上に努めてまいります。

本年度はさらに、上湧別小学校と富美小学校を研究推進校として、複式授業での効果的な活用方法や他校の複式学級とのオンライン授業などについて実践研究を行い、タブレットパソコンの効果的な活用を進めてまいります。

第四は、「安全・安心な学校づくりの推進について」であります。

新型コロナウイルス感染症の対応については、学校での万全な感染予防対策を講じるとともに、家庭での感染予防の徹底を啓発してまいります。

学校行事については、コロナ感染状況を見極めながら、可能な限り実施できる方法を検討するとともに、オンライン授業の準備を整えることで、いかなる状況でも学びを止めない体制を整えてまいります。

登下校の安全確保については、「湧別町通学路交通安全プログラム」に基づき、地域や警察・道路管理者と連携して安全確保に努めてまいります。

第五は、「豊かな心と健やかな体の育成について」であります。

豊かな心を育むため、道徳授業や集団生活のルールを指導するとともに、運動の習慣化や規則正しい生活、スマートフォンやゲーム依存の防止なども指導することで、心と体が調和した優れた人格形成を図ってまいります。

いじめや不登校については、早期発見と素早い対応に努め、家庭や関係機関と連携して早期解決を図ってまいります。

第六は、「特別支援教育について」であります。

支援を必要とする子どもたち個々に応じた支援を行うため、湧別小学校を拠点に派遣指導を行う通級指導教室の充実や、各学校に設置する特別支援学級及び特別支援教育支援員を引き続き配置するとともに、関係機関との連携を図り適切な支援を提供してまいります。

第七は、「中高一貫教育について」であります。

町内中学校・義務教育学校後期課程と湧別高校で行う中高一貫教育については、6年間を通じたキャリア教育を目的に平成17年から開始され、16年が経過しました。

この間2度、学習指導要領が改正され、児童生徒は小学校段階から自分の将来像と職業観を学習し、学びの成果はキャリアパスポートに記録し高校に引き継ぐことが制度化されるなど、中高一貫教育の取り組みとの一部重複が生じております。

このため本年度は、町が進める小中一貫教育いわゆる9年間を見据えた義務教育学校の導入により、中高一貫教育との整合性が問われることから、適正化の

ため検討を進めてまいります。

第八は、「北海道湧別高等学校への支援について」であります。

湧別高校については、同校の魅力化と入学者数の増加を図るため、「北海道湧別高等学校存続対策事業」を継続して実施し、各種助成により存続を支援してまいります。

第九は、「国際理解教育の推進について」であります。

外国語教育については、小学校6年生までに英語検定資格の取得をめざす「英検チャレンジ事業」を継続して実施いたします。

国際交流事業については、友好都市のニュージーランドのセルウィン町及びカナダのホワイトコート町と行っている、中学生・高校生の交換留学事業と相互交流事業は、新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら実施してまいります。

第十は、「学校給食センターの運営について」であります。

学校給食については、施設内の衛生管理を徹底し、老朽化した厨房設備を更新するとともに、地場産や北海道産の食材を優先的に使用した栄養バランスの優れた給食を提供してまいります。

また、食育については、食の大切さや食に関する正しい知識と食習慣を身に付けるための栄養教諭による指導を行ってまいります。

本年度の給食費については、昨年と同額の1食当たり小学校247円、中学校285円で提供してまいります。

第十一は、「社会教育の振興について」であります。

町民の社会教育活動を活性化することで、住民相互の関係性が深まり、住みやすい地域づくりに繋がってまいります。新型コロナウイルス感染症の影響も3年目に入り、人との接触の機会を減らさざるを得ないなか、人との繋がりをいかに築くかが求められ、社会教育にとっては、極めて重要な課題となっております。

したがって、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化するなか、コロナ社会における既存事業の改善を含めた、新たな事業スタイルを積極的に模索してまいります。

社会教育全般では、「人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる」をテーマとした「第2次社会教育中期計画」が計画5年目の最終年を迎えます。

このことにより、人々が生涯を通じて健康で生きがいを持って暮らすため、社

会の変化に対応した学習機会を提供し、豊かな人間性を育める環境となるよう、それぞれの分野における取り組みを進めるとともに、この5年間の成果と課題を洗い出し、町民の主体的な学習活動が図られるよう「第3次社会教育中期計画」を策定し、地域と家庭の教育力の向上を目指してまいります。

家庭教育については、子育て世代包括支援センターと連携を密にし、情報提供や相談窓口の開設、家庭教育研修会の開催など支援体制の充実を図ってまいります。

青少年教育については、豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を高めながら、達成感を得て成長を促す取り組みが重要であります。

このため、小学生の体験塾や青少年指導センター事業などにより学習機会の提供に努めるとともに、中高生リーダーの養成にも努めてまいります。

また、友好都市である新篠津村との小学生交流事業を3年ぶりに開催し、集団生活を通じた歴史・文化を学ぶ活動や、友好と交流の輪を広げてまいります。

さらに、地域のリーダーとしての活躍が期待される青年層にとっては、職種を超えた仲間づくりや、地域の青年組織の結びつきを深める取り組みが重要であります。

このため、全町的組織である青年団体協議会の活動を支援しながら若者の社会参加を促進してまいります。

成人教育については、幅広い学習ニーズに応える学習機会の提供と、学習意欲を喚起することが必要であります。

このため、民間団体により開催されている「町民大学」や「ふるさと講座」など自主的な活動がさらに活発になり、町民の学習機会が充実するよう、社会教育関係団体の支援に努めてまいります。

高齢者教育については、「チューリップ生きがい大学」を中心に学習機会の提供を行っておりますが、新規会員の減少が課題となっております。

このため、新たにアクティブシニアをターゲットにした事業展開も進め、高齢者の学びを支え、生きがいのある充実した生活に繋げていただけるよう支援してまいります。

社会教育施設については、児童から青年、成人、高齢者に至るまで、すべての年齢の方々に、学習や研修、スポーツや趣味を楽しむ機会を提供することができる生涯学習活動の拠点となる施設でありますので、安心して施設を利用できるよう計画的な整備を図ってまいります。

本年度から、水銀灯の製造中止に伴う照明器具のLED化を計画的に取り進めることとし、本年度は湧別総合体育館外灯と湧別プールの照明を更新いたします。

文化センターさぎ波では、老朽化に伴う故障や事故を未然に防ぐため、舞台吊物装置改修を本年度を初年度とした整備計画に基づき取り進めることとするほ

か、外壁塗装については5か年計画の最終年として実施いたします。

また、両文化センターにおけるインターネット環境の充実、五鹿山スキー場のリフト設備改修などを計画しております。

さらに、パークゴルフ場と野球場などについては、町民の利便性を高めるために、使用期間と使用時間を拡大してまいります。

第十二は、「スポーツの振興について」であります。

生涯にわたってスポーツに親しむことは、体力の向上や、精神的ストレスの発散、生活習慣病の予防など、健康で文化的な生活を営むうえで極めて大きな意義があります。

このため年齢層に応じたスポーツ大会や教室を開催し、生涯スポーツの推進に努めてまいります。

体育協会をはじめスポーツ少年団などの団体育成については、その活動の支援を図るとともに、スポーツ指導者の育成に努めてまいります。

また、運動指導職員による健康運動教室やトレーニング室での運動指導、利用者個人に合ったトレーニングメニューの提供のほか、ニュースポーツなどを通じて気軽に運動に親しむきっかけづくりを新たに進め、町民の体力づくり、健康づくりの推進に努めてまいります。合わせて、学校や団体などのスポーツ指導に、運動指導職員を積極的に派遣してまいります。

柔道や合気道などの合宿誘致事業などについては、交流人口の増加や町民への実技指導、交流などが図られるよう引き続き支援を行い、スポーツの普及と振興に努めてまいります。

また、各種団体活動や少年団活動において優秀な成績を収め、全道大会などへ出場する際の支援について、継続的に実施してまいります。

第十三は、「芸術文化の振興について」であります。

音楽や芸能などの芸術文化は、観る者に感動や生きる喜びをもたらすだけでなく、自らの創作活動意欲を高めるなど、生活に潤いを与え、欠かすことのできないものであります。

本年度においても優れた芸術文化に触れる機会を提供するため、幼児・児童・生徒、そして一般町民に合った良質な芸術鑑賞事業を開催するとともに、町民有志団体による芸術鑑賞事業へ支援してまいります。

また、文化連盟をはじめとする文化サークルの活動を継続的に支援し、豊かな人間性を育む芸術文化の普及振興に努めてまいります。

第十四は、「博物館及び文化財保護活動について」であります。

ふるさと館JRY・郷土館については、収蔵資料の整理を進め、適正な保存に

努めてまいります。

また、本年度も学校教育との連携による体験型学習プログラムの提供や展示などを継続し、町民が歴史文化に触れる機会を提供してまいります。

文化財については、遺跡を保護し、次世代に伝えていく必要があります。

平成30年度より実施している北海道指定史跡「シブノツナイ竪穴住居跡」の発掘調査を継続し、専門家による調査検討委員会の開催、出土資料の科学分析などを行い、遺跡の範囲や年代を確認してまいります。

第十五は、「図書館活動の振興について」であります。

図書館については、学習活動の重要な拠点であります。そのため、本の購入、展示、質問への対応などの図書館機能の充実に努めてまいります。

子どもの読書活動を推進する取り組みをまとめた計画である「子どもの読書活動推進計画」に基づき、ブックスタート事業、学校図書支援、移動図書館車運行、さらには各ボランティアとの協働による読書機会の提供などを行ってまいります。

「子どもの読書活動推進計画」は、関係機関・団体、教育関係者などにより構成される「湧別町子どもの読書活動推進計画策定委員会」によって平成30年度に策定されました。計画期間が令和4年度までの5か年計画であることから、本年度あらたな「子どもの読書活動推進計画」の策定を行ってまいります。

また、小中学生に対しましては、各学校と十分連携を図りながら、学校図書室の整備支援をはじめ、学級配本や移動図書館車の運行などを実施し、読書普及活動の推進に努めてまいります。

以上、令和4年度の教育委員会の所管行政に関する執行方針を申し上げます。

教育委員会では、町民が生涯学びつづける環境づくりのため、一丸となり教育振興に取り組みますので、町民の皆さま及び町議会並びに教育関係者のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

湧別町教育目標

- 1 社会に参画できる実践的な能力をはぐくむ
- 2 自他を尊重し、ともに支える豊かな心をはぐくむ
- 3 自らを律し、自ら行動する積極的な心をはぐくむ
- 4 健やかな体と生命を尊ぶ心をはぐくむ
- 5 自然・環境を守り、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度をはぐくむ

(平成 24 年 2 月 21 日制定)

湧別町学校教育目標

- 1 自ら学んで、知性を高め、正しく判断する子どもを育てる
- 2 思いやりの心を持って、お互いに協力する子どもを育てる
- 3 忍耐力と自律の心を持ち、進んで行動する子どもを育てる
- 4 健やかな心身を持ち、自他の生命を尊重する子どもを育てる
- 5 ふるさとに学び、ふるさとを愛する子どもを育てる

(平成 24 年 2 月 21 日制定)

湧別町社会教育目標

- 1 自ら学び、地域に生かせる人を支える
- 2 他人を思いやる、あたたかく豊かな心の人を支える
- 3 人と人とのつながりを深める人を支える
- 4 健やかな心と体をめざす人を支える
- 5 ふるさとを知り、愛する人を支える

(平成 25 年 3 月 28 日制定)